



2023年度 事業報告

Report

【 2023. 4. 1 - 2024. 3. 31 】



石山夏祭り 2023

「基本理念」

ご利用者の「健やかな生活」の実現のため、心をこめた福祉サービスの提供を
全力で実行します。

2023年度 経営報告

Purpose 人々の豊かな生活、地域社会、そして日本を支える「福祉」
私達は「誇り」を持って、日本の福祉を「創造」し、「挑戦」します

1. 総括

《はじめに》

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類感染症に引き下げられたことで、新型コロナウイルス感染症の対策はひとつの節目を迎えました。ご利用者がコロナ禍前の生活を取り戻し、より活発な生活へと移行するために、各施設・事業所の運営方針を大きく転換することとなりました。これまでのご利用者やご家族のご協力にあらためて御礼申し上げるとともに、ご利用者の命を守る感染対策とケアに献身的に取り組んでくれた職員へ最大限の感謝の意を表します。

各施設では、大切なご家族との時間を過ごしていただくことや外出等の楽しみのある生活を過ごしていただくことに勇気を持って取り組みました。また、通所・訪問、相談関係の各事業所は、各種感染症の感染対策を図りながら、地域に暮らす高齢者や障がいをお持ちの方の地域生活を支え続けました。当法人が運営する各施設、事業所の職員の努力により、大きく変化する社会環境の中で福祉サービスの提供とご利用者への支援を継続することができたと評価しています。

さて、2023年度事業方針では、ご利用者の生活をアフターコロナに順応したものへと転換することと安定経営の基盤構築のため、各施設・事業所の経営、運営を進めていくことを事業計画に掲げました。継続する新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の発生と急激な物価高騰は経営に大きなインパクトを与え、支出額は増加の一途を辿っています。一方で、各施設・事業所の実績の向上等により、サービス活動収益（売上高）は2022年度比で36,228千円を超える増収、2021年度比で50,436千円を超える増収となりました。2022年度は、新型コロナウイルス感染症関連補助金36,775千円の交付を受け、経営を維持しましたが、2023年度は新型コロナウイルス感染症関連補助金を除いたサービス活動収益（売上高）の増収により、修繕費として30,000千円を積み立て、当期活動増減差額29,627千円、当期資金収支差額39,529千円と安定した経営を取り戻すことができました。

2024年度は、介護保険制度及び障害者総合支援法における報酬改定が行われる年となります。非営利法人である社会福祉法人とは言え、一企業として安定経営のための各施設・事業所の経営施策の推進をしなければなりません。物価高騰等を含めた社会情勢への変化に対応しながら、新たな報酬体系の中で安定した経営を進めていきます。

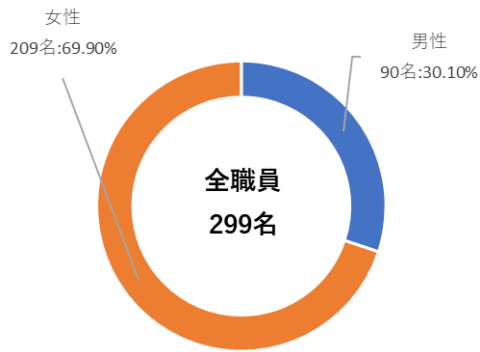
当法人が運営する社会福祉事業は、ご利用者である高齢者、障がいをお持ちの方の暮らしと地域社会を支える事業です。災害の最中も、困難な事業環境にあったとしても、私たちはお一人おひとりへの支援を続けなければならないと考えています。そのためにも、人材の確保、定着、育成のための投資と待遇改善は継続的な重点課題と認識しています。

ご利用者も、職員も、その人らしく豊かな生活を送れるように、着実な法人経営を進めて参りますので、引き続き、皆様の変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。

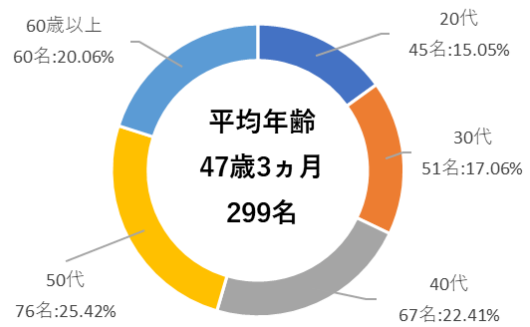
感謝 法人役員一同

2. 法人の基本データ（職員について）

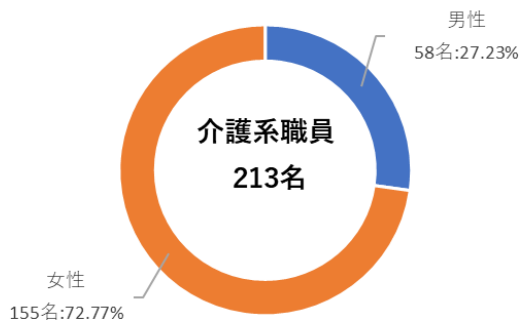
職員 男女比



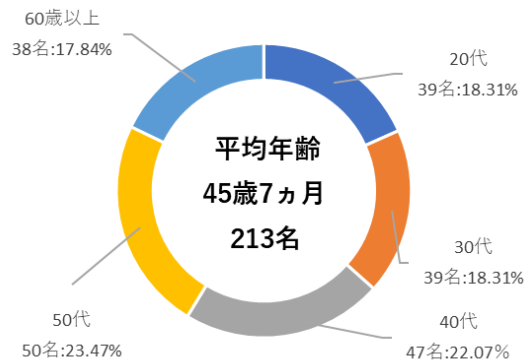
職員 年齢構成比



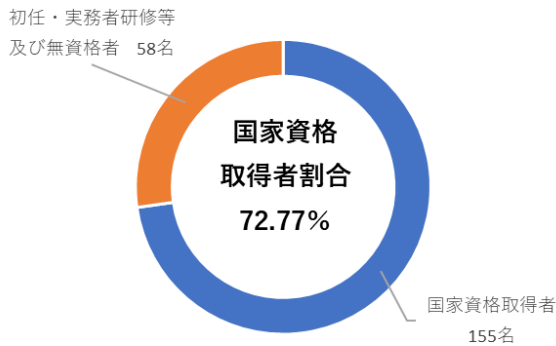
介護系職員 男女比



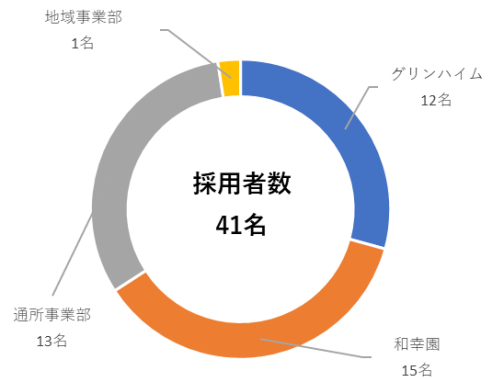
介護系職員 年齢構成比



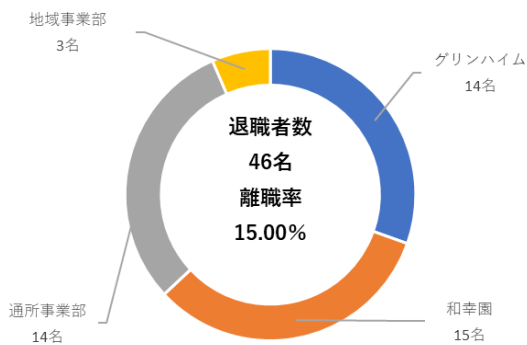
介護系職員 国家資格取得者数



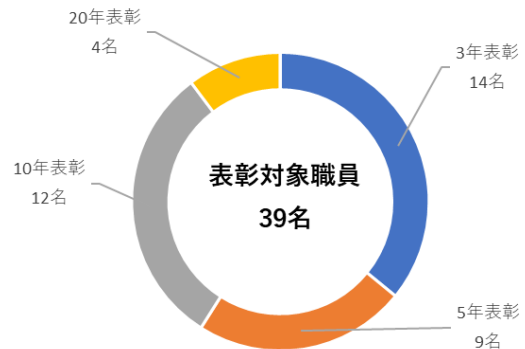
年間採用者数



年間退職者数



永年勤続表彰者



【平均勤続年数】 8年11ヵ月（介護系職員：8年8ヵ月）

【障がい者の雇用率】 3.19%（9名雇用）（法定雇用率2.50%）

3. 2023年度 経営方針（中期経営方針 2022-2024 年度）に対する成果と課題

（1）誰もが、その人らしい生活を継続するための福祉サービスの提供と地域づくり

～「利用者視点」・「地域貢献視点」～

アフターコロナ「コロナ禍前の生活へ」を1つのテーマとして、在宅復帰を目指すことができる科学的根拠に基づくケアとその人らしい暮らしを重視したケア、ターミナル期の寄り添うケアの実践を目指し、特別養護老人ホーム和幸園と障がい者支援施設グリーンハイムの経営に取り組みました。また、高齢者、障がいをお持ちの方、子どもなど、誰もがその人らしい生活を継続できるように、可能な限り地域で暮らすことを可能とする多様性を重視した在宅福祉事業（通所・短期入所・訪問介護）、相談系事業（居宅介護支援・相談支援・介護予防）の経営に取り組みました。

また、地域福祉の拠点となる社会福祉法人として、地域貢献活動の実施、福祉現場からの研究発表や研修会の実施、さらに地域住民や地域の各種団体、各種産業との協働を通じ、誰もが暮らしやすい地域づくりに取り組みました。

- ◆ 面会や外出、集団でのレクリエーション、行事等の規制を緩和し、コロナ禍前の生活を超越する楽しみのある生活の実現に取り組みました。
- ◆ 「特別養護老人ホーム和幸園」では、「自立支援介護（日中おむつゼロ）」を実践するとともに、ケアの効果測定と実践事例の情報公開を行いました。
- ◆ 札幌市障がい者相談支援事業の受託や緊急ショートステイの受入れ、札幌市障がい福祉計画の推進に係る各種協議会の役員活動を行う等、地域福祉の拠点としての役割を担いました。
- ◆ 通所事業部、地域事業部ともに、コロナ禍で低下したご利用者の身体機能の向上のためのサービス提供、支援と積極的な社会参加を促す支援を行いました。
- ◆ 地域貢献事業である地域の高齢者、障がいをお持ちの方々の外出支援を行う「いしやま朝市送迎バス」の運行、認知症の高齢者の介護をしているご家族（地域の方）を対象とした「認知症状改善塾」を再開しました。また、介護・福祉について相談できる場所づくりとして「介護なんでも相談会」を札幌駅前地下歩道空間「チカホ」で開催しました。
- ◆ 各種地域貢献活動の再開や災害福祉派遣チーム（DWAT）、災害時の地域福祉の拠点としての情報公開等により、地域住民との情報交換、協働体制の構築に取り組みました。

【課題】

- ◆ より多くの方に選んでいただけるサービス、ケアの実践とブランド化（付加価値）に取り組みます。
- ◆ 当法人が、高齢者及び障がいをお持ちの方にとっての地域の福祉拠点となることを目指し、各施設・事業所のケア実践力の強化と各種地域活動に取り組みます。
- ◆ 事故、虐待等のリスクマネジメントを徹底するとともに、事故発生時等には迅速且つ適切な対応、家族を含めた情報共有、必要な情報公開を行います。
- ◆ ご利用者、ご家族とのコミュニケーションを深め、ミスコミュニケーションによるトラブル等が発生しないように、丁寧な説明と確認、情報の共有を徹底します。

(2) 自ら学び、成長、挑戦する意欲を引き出すチームマネジメント

～「人材視点」～

アフターコロナでの社会・経済活動の活性化により、介護・福祉業界からの人材離れは加速しています。当法人では、その対策の1つとして、特定技能1号による外国籍職員の採用に着手し、2023年度末時点で特定技能1号での採用者は16名となり、年度内の入職が6名、2024年度内の入職予定者が10名となりました。特定技能1号により入職した職員は、非常に優秀且つ仕事へのモチベーションが高く期待以上の活躍をしてくれています。

また、職員の育成、定着の施策として、ハイブリッド（リモート・集合）での法人研修の開催やEラーニングでの研修制度の導入、法人内での実務者研修養成校の設置、運営を開始しました。キャリアアップの機会の提供として、介護福祉士国家資格勉強会の開催、実務者研修受講のための奨学金制度を設け、介護福祉士国家資格取得支援の拡充にも取り組みました。

職員の採用活動は、各種処遇改善加算及び法人独自の待遇改善に取り組んでいることと特定技能1号での職員採用により改善傾向にある一方で、職員の定着が課題となっています。採用活動と対となる離職防止が喫緊の課題であるため、役職者のコミュニケーション力とマネジメント力の強化に取り組んでいきます。

- ◆ Eラーニングでの研修システム導入により、職場内研修での活用の他、職員個々の自己研鑽として活用できるようになりました。
- ◆ 特定技能1号による職員採用を通じて、優秀な人材を確保することができました。また、特定技能1号により採用された職員の育成を担当することで、担当職員の成長と育成方法の再検討を行う機会となりました。
- ◆ 介護福祉士受験対策学習会、法人内実務者研修等を開催し、法人全体で7名の国家資格合格者を輩出しました。
- ◆ 各種処遇改善加算、処遇改善支援補助金等を活用した賃金改善を実施しました。また、処遇改善加算対象外となっている職員の待遇改善のための給与規程の改正を行いました。
- ◆ 特別養護老人ホーム和幸園では、補助金を活用したICTシステム「カメラ付きセンサーシステム」の導入による業務負担軽減とリスクマネジメントを実践しました。その他、見守りセンサー付ベッドや自動体交マットレス、移乗機器等を各施設で導入しました。
- ◆ 衛生委員会が実施したアンケート結果を参考にして、職員休憩室等の環境整備（Wi-Fi環境整備、休憩用リクライニングチェアやソファ等の設置）を行いました。また、職員の健康増進を目的として、厨房業務委託業者による弁当の販売を開始しました。

【課題】

- ◆ 法人の方針や事業内容を理解した職員の採用を促進するため、SNSや法人ホームページ、indeed等の求人サイトを活用した採用を進めるとともに、採用チャネル・ツールの拡大と整理を行います。
- ◆ 専門職研修、キャリアアップ研修を実施するとともに、役職者向けのコミュニケーション、労務マネジメント等の研修を行い、職員の定着率の向上に取り組めます。
- ◆ ICTシステムと介護ロボット、介護機器等の導入により業務負担の軽減を図るとともに、職場環境の改善のための設備投資を行います。
- ◆ バックオフィス業務のアウトソーシングの拡大に取り組めます。

(3) 持続可能な経営基盤の確立

～「財務視点」・「ガバナンス視点」～

安定した経営基盤の確立のため、コンプライアンスと透明性の高い経営を基礎として、経営実績、財務状況についての明確な目標を定め、各施設・事業所の経営改善に取り組みました。新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の発生、物価高騰等の厳しい社会情勢の中、各施設・事業所の実績の向上等により、サービス活動収益(売上高)は、昨年度比で36,228千円を超える増収となりました。このことにより、新型コロナウイルス感染症関連補助金に依存した経営から脱却し、健全な経営へ移行しています。

総括としては、修繕費積立資産30,000千円を積み立て、当期活動増減差額29,627千円、当期資金収支差額39,529千円と法人全体での黒字決算を達成することができ、継続する各種感染症の脅威と急激な物価高騰等の厳しい経営環境下において、堅調な経営を継続することができました。

今後は、長期的な経営基盤の安定に向けて、各施設稼働率の向上と成長の余地のある通所・地域事業の拡大に取り組んでいきます。

- ◆ 各施設・事業所の利用稼働率が大幅に改善していることと各種補助金の活用により、物価高騰等による各種経費の増額を吸収することができ、経営改善を図ることができました。
- ◆ 訪問介護事業所は、ホームヘルパーの確保が困難な状況ではありますが、常勤職員の体制を縮小したことで、持続可能な経営スタイルが確立しつつあります。
- ◆ 社会福祉法等の関係法令に基づき、理事会・評議員会を開催(対面)し、予算、事業計画、決算、事業報告、各種規程の改正、法人及び事業所の経営上の重要事項を適正に決議しました。
- ◆ 情報公開(定款、各種規程等、事業計画、予算、事業報告、決算等、介護職員処遇改善計画等)、アカウントビリティ(説明責任)の推進のため、内部では法人内ネットワーク等を活用し、職員との情報共有を図りました。外部への情報発信については、より広く効果的な情報発信を目指し、Instagramを新たに開始し、SNS活用の幅を拡大しました。
- ◆ 業務負担軽減や業務効率化のためのICT機器等の導入、職場環境の改善のためのエアコン設置工事等の投資を行っています。

【課題】

- ◆ 新たな報酬体系の中で、収益率の向上を目指した各施設・事業所の経営に取り組みます。
- ◆ より多くの方に選んでいただけるサービス、ケアの実践とブランド化(付加価値)と情報発信力の強化に取り組みます。
- ◆ 通所・地域事業は、成長の余地があるため、適正な人員配置と事業拡大に取り組みます。
- ◆ 小規模事業所については、新たな報酬体系の中で、持続可能な経営スタイルの検討を行います。

法 人 事 務 局

1. 事業報告総括（事務局、経理、総務、管理）

法人事務局では、理事会、評議員会において、予算、事業計画、決算、事業報告、規程の改正、法人及び各施設、事業所の経営上の重要事項の決議を行うため、円滑且つコンプライアンスに基づいた業務遂行を行いました。また、法人の健全経営、透明性の高い運営に向けた施策として、内外部への各種情報公開を行うとともに、職員の待遇改善、職場環境の改善のための施策を検討、執行部への提案し、各種規程の改正、各種処遇改善計画の作成、実績報告等を行いました。

経理部門については、定期的な監事監査（財務担当税理士）等を通じて、各種助言を得ながら正確、適正な会計処理、契約手続きを執行しました。また、総務部門については、顧問社会保険労務士の助言、指導を受け、法・制度に対応した適正な労務手続き、給与計算業務等と各種助成金の申請や届出業務、ご利用者の預り金管理業務を行いました。管理部門については、防災関係、施設設備、車輛関係に係る維持管理・修繕業務を行いました。

法人の事業方針であるアフターコロナ「コロナ禍前の生活へ」をテーマに施設の各種行事へ参画し、ご利用者への直接支援にも取り組みました。また、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症対策として施設内共有部分の定時の消毒・換気や注意喚起の館内放送の実施、施設内での感染症発生時には、現場職員を支援する後方支援の役割を担いました。

経営面においては、国、地方公共団体等が実施する各種補助金を活用し、ICTシステムや介護ロボットの導入、職員のキャリアアップのための研修への補助、ご利用者の利用負担を軽減する社会福祉法人減免制度への一部補助の他、物価高騰に対する各種補助金の申請を行い、法人全体で27,443千円を超える補助金の交付を受けることができました。

2. 法人運営状況

(1) 役員体制

役 職	氏 名	職 業	任 期
理事長	太田 三 夫	学識経験者：太田・遠藤法律事務所 弁護士	2023. 6. 22 ～ 2025. 6
常務理事	平松 朋 紀	職員：総合施設長・法人事務局長	2023. 6. 22 ～ 2025. 6
理 事	石川 由 男	学識経験者：春野会計事務所 代表税理士	2023. 6. 22 ～ 2025. 6
〃	大 沼 百合子	学識経験者：当法人元常務理事	2023. 6. 22 ～ 2025. 6
〃	檜 森 道 子	学識経験者：当法人元地域事業部部長	2023. 6. 22 ～ 2025. 6
〃	星 野 八重子	職員：和幸園施設長	2023. 6. 22 ～ 2025. 6
監 事	伊 藤 敏 幸	学識経験者：他社会福祉法人施設長経験者	2023. 6. 22 ～ 2025. 6
〃	平 田 清 悦	財務学識経験者：平田清悦税理士事務所 所長	2023. 6. 22 ～ 2025. 6

役職	氏名	職業	任期
評議員	浅香博文	学識経験者：社団法人会長（福祉関係）	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	岩本龍明	地域の代表：会社経営者	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	大磯英太郎	地域の代表：会社経営者・石山商店街振興組合理事	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	塩田恒雄	地域の代表：地区社会福祉協議会会長	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	瀧川尚規	学識経験者：他社会福祉法人施設長	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	千葉徹	学識経験者：他社会福祉法人理事長	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	福士昭夫	地域の代表：石山地区町内会連合会会長 他	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	藤沢美穂子	地域の代表：札幌市赤十字奉仕団石山分団長	2021. 6. 15 ～ 2025. 6

(2) 理事会開催状況

第1回 2023年5月26日（金）午後2時～3時

出席 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、檜森道子、星野八重子（理事5名）

土肥富彦、石川由男（監事2名）

協議事項 2022年度 事業報告（案）について

2022年度 決算報告（案）について

監事監査（2022年度全般）結果について

次期役員（理事・監事）候補者の選定について

定時評議員会の開催について

第2回 2023年6月22日（木）決議省略：書面

太田三夫、平松朋紀、石川由男、大沼百合子、檜森道子、星野八重子（理事6名：同意書）

伊藤敏幸、平田清悦（監事2名：確認書）

協議事項 理事長の選任について

常務理事の選任について

第3回 2023年10月5日（木）午後2時～3時

出席 太田三夫、平松朋紀、石川由男、大沼百合子、檜森道子、星野八重子（理事6名）

伊藤敏幸、平田清悦（監事2名）

協議事項 資金管理（預金管理）について

第4回 2023年12月22日（金）午後2時～3時

出席 太田三夫、平松朋紀、石川由男、大沼百合子、檜森道子、星野八重子（理事6名）

平田清悦（監事1名）

協議事項 厨房業務委託契約の更新について

第5回 2024年3月29日（金）午後3時～4時

出席 太田三夫、平松朋紀、石川由男、大沼百合子、檜森道子、星野八重子（理事6名）

伊藤敏幸、平田清悦（監事2名）

協議事項 2023年度 第1次収支補正予算（案）について

2024年度 事業計画（案）について

2024年度 収支予算（案）について

給与規程の改正について

(3) 評議員会開催状況

第1回 2023年6月22日(木) 午後2時～3時

出席 浅香博文、大磯英太郎、塩田恒雄、瀧川尚規、千葉徹、福士昭夫、藤沢美穂子
(評議員7名)

土肥富彦、石川由男(監事2名)

協議事項 2022年度 事業報告(案)について

2022年度 決算報告(案)について

監事監査(2022年度全般)結果について

次期役員(理事・監事)の選任について

(4) 監事監査実施状況

第1回 2023年 5月17日(決算)

第2回 2023年 9月19日(定期)

第3回 2023年12月15・20日(定期)

第4回 2024年 3月18日(定期)

(5) 各種指導監査

2023年度 企業主導型保育事業指導監査:(独) 児童育成協会

文書指導事項なし

源泉所得税及び復興特別所得税に係る国税調査:札幌中税務署

軽微な修正あり

(6) 法人全体研修(ZOOM 併用のハイブリッド研修)

※他法人職員公開研修

	研修名	開催状況
1	身体拘束廃止と虐待防止の基本を理解する 講師 池田ひろみ 氏(合同会社うえるかむ)	2023年 8月24日 18:10～19:30 参加者 61名
2	コミュニケーションの心理学について 講師 吉澤 英里 氏(星槎道都大学)	2023年10月26日 18:10～19:30 参加者 62名
3	介護保険制度改正 どう変わる? 介護報酬システム 講師 竹内 孝仁 氏(国際医療福祉大学)	2023年11月6日 14:00～16:30 参加者 33名
4	安全運転講習会 講師 佐々木 厚史 氏(オフィスブレイン)	2023年12月7日 18:10～19:30 参加者 44名
5	介護施設におけるカスタマーハラスメント対策 講師 川瀬 善美 氏(白鷗大学)	2023年12月20日 18:10～19:30 参加者 54名
6	介護福祉士国家試験直前対策講座 講師 宮下 史恵 氏(旭川大学)	2024年 1月12日 13:00～17:00 参加者 6名(全員合格)
7	認知症ケアについて 講師 竹内 孝仁 氏(国際医療福祉大学)	2024年 1月18日 14:00～17:00 参加者 34名
8	音楽療法について 講師 越後 若葉 氏(介護老人保健施設あつべつ)	2024年 2月29日 18:10～19:30 参加者 58名
9	介護福祉士受験対策講座 講師 法人職員	2023年 8月～2024年1月 参加者 6名(全員合格)

(8) 防災訓練実施状況

実施日	実施内容	
2023年 6月21日	【火災避難訓練】 初期消火・通報・ご利用者の避難誘導訓練	グリーンハイムより出火想定訓練(和幸園合同) ①出火想定時間及び場所 夜間想定 午後11時00分 グリーンハイム本館2階居室 ②他階及びデイサービスでは日中想定訓練 (午前11時00分)
2023年 6月21日	【土砂災害時避難訓練】 ご利用者の避難訓練及び建物・外周の状態確認	集中豪雨発生による危険個所の探索及びBCP発動の想定訓練(和幸園) ①集中豪雨発生時間及び場所 日中想定 午前11時00分 札幌市内
2023年 7月12日	【火災避難訓練】 初期消火訓練	火災発生想定での消火器使用訓練 (グリーンハイム玄関前)
2023年10月20日	【火災避難訓練】 初期消火・通報・ご利用者の避難誘導訓練	和幸園より出火想定訓練(グリーンハイム合同) ①出火想定時間及び場所 夜間想定 午後11時00分 和幸園(3階)3条4丁目居室 ②他階及びデイサービスでは日中想定訓練 (午前11時00分)
2023年10月20日	【土砂災害時避難訓練】 ご利用者の避難訓練及び建物・敷地内の危険箇所の有無確認	集中豪雨発生による危険箇所の探索及びBCP発動の想定訓練(グリーンハイム) ①集中豪雨発生時間及び場所 日中想定 午前11時00分 札幌市内
2023年12月 5日	【BCP策定委員会及び机上訓練】 対策本部、拠点対策本部機能強化	各施設・事業所の感染症BCPの策定と机上訓練の実施等(意見交換含め)
2024年 2月 6日	【BCP策定委員会及び机上訓練】 対策本部、拠点対策本部機能強化	各施設・事業所の感染症BCPの策定と机上訓練の実施等(意見交換含め)
2024年 3月19日	【緊急連絡・参集訓練】 緊急連絡網による緊急連絡	地震発生により、ブラックアウトとなったことを想定した緊急連絡訓練 (午後6時30分から連絡開始)
2024年 3月21日	【地震災害時避難訓練】 地震による災害時緊急避難訓練(発電機稼働訓練)	地震発生による危険個所の探索及び発電機稼働訓練等 ①地震発生時間及び場所 日中想定 午前11時00分 札幌市内
新型コロナウイルス感染拡大のため中止	【他施設との共同避難訓練】 地震による災害時緊急避難訓練	震度6の地震発生による他施設からの避難者受入れ訓練(または他施設ご利用者受入れ訓練)

(9) ご利用者預り金管理

区分	預り人数	預り金残高(2024.3.31)
グリーンハイム	72名	149,412,498円
和幸園	3名	1,006,264円

(10) 地域貢献活動

- ・介護なんでも相談会（札幌駅前地下歩道空間「チカホ」での介護・福祉相談会を開催）
- ・認知症状改善塾
- ・いしやま朝市送迎バス
- ・石山地区清掃活動(春・秋 年2回)
- ・学生ボランティアの受け入れ（通算50名程度参加）

(11) 広報活動（広報委員会）

- ・広報誌「かけはし」の作成（年2回発行）
2023年7月発行（56号）、2024年2月発行（57号）
- ・ホームページの運営
- ・Instagramの運営（1,000フォロワー達成）

(12) 業務委託状況

業務内容	業務委託先
施設厨房業務	(株) エムズフード
夜間警備業務	北海道東急ビルマネジメント (株)
送迎車輛運転業務	北海道東急ビルマネジメント (株)
清掃業務	(株) シムス
昇降機定期点検業務	SEC エレベーター (株) 三菱電機ビルテクノサービス (株)
専用水道水質検査業務	(財) 北海道薬剤師会公衆衛生検査センター
自動ドア保守点検業務	フルテック (株)
非常火災設備保守点検業務	(株) ネットワークイン
冬期除雪業務	(有) グッドウイング
デジタル交換機保守	新日本通信工業(株)
労務・総務顧問	社会保険労務士事業所テラス
職員検診	医療法人社団明日佳 札幌検診センター
ストレスチェック	医療法人社団五稜会 札幌 CBT&EAP センター

(13) 法人建物・車輛の維持管理

① 建物

実施内容		
4月	貯水槽清掃	(株) 小川技研
6月	厨房用ヒートポンプ外調機点検整備 汚水槽清掃点検	正栄機工 (株) (株) 小川技研
8月	エコキュート点検整備	(株) 前川製作所
9月	消防用設備保守点検及び屋上非常用発電機	(株) ネットワークイン
10月	厨房繰りストラップ清掃	(株) 小川技研
11月	厨房用ヒートポンプ外調機点検整備	正栄機工 (株)
12月	エコキュート点検整備	(株) 前川製作所
1月	汚水槽清掃点検	(株) 小川技研
3月	2号ボイラー点検整備	(株) NTEC サービス
毎月	専用水道水質検査	(財) 北海道薬剤師会公衆衛生検査センター
年6回程度	電気設備点検及び屋上非常用発電機	北海道電気保安協会 (財)
年4回程度	暖房用非常用発電機 (非常用発電機試運転)	法人担当職員

② 車輛

車輛台数 32台 (内リース車両 24台)

2024年3月31日現在

所 属	台 数
グリーンハイム・和幸園職員送迎バス	1台
障がい者支援施設グリーンハイム	4台
特別養護老人ホーム和幸園	3台
和幸園デイサービスセンター	6台
生活介護事業所グリーンハイム	3台
和幸園芸術の森デイサービスセンター のえるの森	3台
和幸園指定居宅介護支援事業所	5台
グリーンハイム・和幸園ホームヘルプサービス事業所	3台
和幸園自立訓練型デイサービスセンター あうるの森	2台
相談支援事業所グリーンハイム	2台
計	32台

各施設及び各職域の事業報告

障がい者支援施設グリーンハイム ～ since 1973 ～

1. 事業報告総括

新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行し、これまで約3年間のコロナ禍の閉鎖された生活からアフターコロナ「コロナ禍前の生活へ」と転換を図ることから、1年が始まりました。グリーンハイムでは、このタイミングでご利用者の外出と面会の制限を完全に撤廃しました。感染リスクの不安は尽きることはありませんでしたが、ご利用者やご家族のご希望もあり、社会状況を鑑みて勇気を持って踏み切りました。施設内での新型コロナウイルス感染症の発生はありましたが、迅速な感染拡大防止施策の実施と基本的な感染対策の継続により、安定して施設運営ができたことは、ご利用者並びにご家族のご理解、職員の専門性の高さで努力によるものと感謝しています。

また、地域生活支援拠点（多機能型拠点）として、緊急時のショートステイの受入れや地域の障がい福祉を支える自立支援協議会、札幌市障がい福祉計画の推進に係る各種協議会への参画を実施しており、2024年度も継続して取り組んでいきます。

施設運営上の喫緊の課題として、職員の不足があげられます。今後は、特定技能1号による職員採用も視野に入れるとともに、職員の定着率向上を目指した職場環境の整備、さらなる待遇改善に取り組んでいきます。

2024年度も、ご利用者が安心して支援を受けることができ、また職員が安心して働くことができるための施設経営・運営を目指すとともに、地域社会への貢献、社会的価値を高めていけるよう努力していきます。

2. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

- ・ 接遇委員会、虐待防止（身体拘束等適正化）委員会、リスクマネジメント委員会を定期的開催し、ご利用者と向き合う姿勢の確認や虐待防止（身体拘束等適正化）の重要性の周知、事故やヒヤリハット事例の検証を行う等、それぞれの委員会活動を通して、ご利用者支援に関する意識向上と専門性の向上に取り組みました。
- ・ 2022年度と比較し、施設内で発生した事故件数が大幅に増加する結果となりました。事故報告の基準を改め、これまで対象外としていた軽微なケースも事故扱いとすることを徹底したことが報告件数増加の一因となります。介護業務未経験の職員採用も増加していることから、基本的なケアマニュアルの順守や統一したケア方法の実践について周知し、適切なケアの実践に向けて取り組んでいきます。
- ・ 新型コロナウイルスの感染法上の5類移行を受けて、基本的な感染対策は継続した上で、外出や面会の制限を撤廃しました。各種行事については、レク係を中心にグループ単位から施設単位での実施に変更する等、ご利用者の余暇活動の充実に向けて取り組みました。
- ・ 2023年度は、1名のご利用者に対し看取り介護を開始し、現在も継続して支援しています。多職種が連携し、ご本人、ご家族に寄り添いながら支援を継続していきます。

(2) 財務視点

2023年度は、施設入居稼働率95.15%（95.15名）、ショートステイ稼働率140.64%（5.62名）という結果になりました。施設入居は、入院日数の増加や実質的な待機者不足等により、厳しい結果となりました。入居希望者の確保が急務となっているため、引き続き関係機関への周知活動を継続していく必要があります。ショートステイについては、定期のご利用者の利用休止、廃止等が懸念されるため、新規ご利用者の受入れを進めていきます。

2023年度より新設した実績管理会議については、実施方法や会議での情報共有内容等に課題が残りました。施設入居の希望者、ショートステイのご利用者の受入れに向けて、実施方法や内容を精査し、効果的な会議運営に努めていきます。各種加算については、算定要件を確認しながら、書面等の整備を含め、適正な運営を継続していきます。

(3) 人材視点

2023年度後半から2024年度にかけて、職員の退職が相次ぎ、安定した職員体制の確保が大きな課題となっています。2024年度には特定技能1号による職員の採用に着手するとともに人材派遣会社や各種求人サイトを通して、職員活動を活性化していきます。また、採用した職員の育成・定着を適切に行い、安定した施設運営に取り組みます。そのために、有給休暇取得率の向上や職員間のコミュニケーションの促進、専門知識・技術の習得を進めながら、働きやすい職場環境整備を進めていきます。

(4) 地域貢献視点

入居施設、ショートステイサービス、札幌市入浴サービス事業の受託を継続するとともに、主たる介護者の入院等、緊急性が高いケースの受け入れを行う等、専門職としての知識、技術を発揮し、地域における社会資源としての役割を果たしました。引き続き、地域住民が安心して利用できる社会資源としてサービス提供を継続するとともに、虐待による緊急一時保護等、緊急性の高いケースにも迅速に対応していきます。また、障がい福祉を支える自立支援協議会や札幌市障がい福祉計画の推進に係る各種協議会への参画も継続していきます。

(5) ガバナンス視点

サービス提供に係る契約書類、実績記録、個別支援計画をはじめとする各種記録の同意、日々の業務やご利用者の経過等の記録等整備に努めました。引き続き、書類の整備や適切な記録を行い、ご利用者・ご家族への記録の開示、行政や関係機関からの記録、書類の照会や実地指導等に対応できる体制構築に向けて取り組みます。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況（定員／入居100名、短期4名）

2024年3月31日現在

職名	配置基準数	現員数	備考
施設長	1名	1名	社会福祉士／精神保健福祉士／介護福祉士 サービス管理責任者兼務
サービス管理責任者	2名	2名	社会福祉士2名／精神保健福祉士1名 管理者兼務1名
生活支援員（相談）	65.3名 （常勤換算）	8名	相談員 常勤3名：社会福祉士3名／精神保健福祉士1名 相談員補助 非常勤5名
生活支援員（介護）		48名	常勤39名、非常勤9名：介護福祉士36名／精神保健福祉士1名、社会福祉士1名
看護職員		12名	併設施設兼務10名、夜勤専従2名 （常勤換算6.9名 うち生活介護3.9名）
機能訓練指導員		1名	理学療法士
医師	1名	2名	定山溪病院 配置医（週1回往診）
管理栄養士	1名	1名	

(2) 職員配置比率

職種	常勤換算	算出基準：定員に対する配置比率
生活支援員（相談）	7.0名	定員104名 / 61.2名 1.70名
生活支援員（介護）	46.3名	
看護職員	6.9名	
理学療法士	1.0名	
計	61.2名	

(3) 職員研修実施状況

開催日	研修名	講師	参加職種
随時	プリセプター研修	介護係長	介護員
随時	障がいの理解	施設長	介護員
随時	排泄委員会 オンライン研修	リフレオムツサポーター	排泄委員
随時	介護技術研修（全5回）	リーダー職	新人介護員
随時	摂食・嚥下について	介護係長	新人介護員
随時	車椅子について	理学療法士	新人介護員
随時	口腔ケアについて	歯科衛生士	新人介護員
随時	排泄について オンライン研修	リフレオムツサポーター	新人介護員
毎月	緊急時対応訓練（夜間・窒息等）	リスクマネジメント委員	毎月グループ持ち回り

(4) ご利用者状況

① 入退居状況

	2023. 4. 1	2023. 4. 1 ~ 2024. 3. 31		2024. 3. 31
	在籍者	入居者	退居者	在籍者
男 性	52	7	6	53
女 性	48	4	4	48
計	100	11	10	101

② 退居理由

	男性	女性	計
ご逝去	5	0	5
他の施設・病院	1	4	5
家庭復帰（地域移行）	0	0	0
計	6	4	10

③ 月別利用稼働率（定員／入居100人、短期4人）

	入 居			ショートステイ		
	2023年度	2022年度	2021年度	2023年度	2022年度	2021年度
4月	95.33%	97.17%	97.47%	150.83%	121.67%	148.33%
5月	95.42%	97.48%	97.65%	141.13%	113.71%	66.13%
6月	97.03%	97.73%	97.93%	134.17%	118.33%	56.67%
7月	96.42%	96.23%	97.87%	125.81%	114.52%	131.45%
8月	96.42%	94.68%	97.58%	145.97%	115.32%	136.29%
9月	93.30%	98.90%	98.67%	150.00%	124.17%	131.67%
10月	90.97%	97.81%	95.68%	162.90%	120.97%	151.61%
11月	93.53%	98.37%	96.53%	145.83%	107.50%	130.83%
12月	95.84%	97.74%	97.29%	131.45%	79.84%	117.74%
1月	95.65%	97.23%	99.32%	129.84%	125.00%	111.29%
2月	95.38%	96.50%	99.32%	130.17%	125.00%	115.18%
3月	96.45%	95.71%	98.48%	139.52%	131.45%	97.58%
計	95.15%	97.12%	97.81%	140.64%	116.45%	116.23%

④ 年齢別状況

	18～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～	計
男 性	0	2	6	12	11	8	10	4	0	53
女 性	0	1	5	11	5	10	10	3	3	48
計	0	3	11	23	16	18	20	7	3	101

⑤ 利用期間状況

	1年未満	3年未満	5年未満	10年未満	15年未満	20年未満	25年未満	25年以上	計
男性	7	7	7	13	10	5	0	4	53
女性	4	6	6	10	7	2	0	13	48
計	11	13	13	23	17	7	0	17	101

⑥ 障がい支援区分

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男性	4	11	14	24	53
女性	2	4	16	26	48
計	6	15	30	50	101

⑦ ショートステイ（短期）実績表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2023	2022
男性	10	9	9	9	9	9	9	10	9	7	8	8	106	104
女性	10	9	8	9	9	10	11	10	10	10	8	8	112	98
計	20	18	17	18	18	19	20	20	19	17	16	16	218	202
利用日数	181	175	161	156	181	180	196	175	163	161	151	173	2,053	1,733

実利用人数：29名(2022年度 22名)

⑧ 訪問（面会）の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2023	2022
延べ人数	66	76	63	64	61	52	47	76	65	56	46	61	733	442
実ご利用者数	30	39	28	28	28	28	26	32	31	28	25	28	351	217

⑨ 外出状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2023	2022
男性	3	6	5	12	10	8	3	6	7	2	4	4	70	47
女性	3	8	6	5	8	4	15	6	10	7	6	4	82	54
計	6	14	11	17	18	12	18	12	17	9	10	8	152	101

⑩ 外泊状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2023	2022
外泊延人数	0	2	1	1	1	3	2	2	5	5	1	3	26	0
外泊延日数	0	4	2	1	1	3	7	10	7	9	6	9	59	0

⑪ 通院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2023	2022
件数	68	64	60	68	73	67	78	72	67	65	60	76	818	648
実延人数	39	40	41	48	47	44	43	45	40	39	40	47	513	450

⑫ 入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2023	2022
入院者	9	12	10	8	9	12	16	13	9	9	10	7	124	102
延日数	136	144	105	163	143	173	225	155	122	126	180	152	1,824	1,716

⑬ 事故報告件数

	事故件数		施設外医療機関対応	
	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度
転倒・転落	45	55	12	9
服薬	61	39	0	0
異食	0	0	0	0
介護	33	8	6	0
誤嚥	7	2	1	0
備品破損・紛失	8	3	0	0
私物破損・紛失	25	23	0	0
その他	65	28	7	2
計	244	158	26	11

⑭ 苦情受付件数

	件 数
食事に関すること	0
設備に関すること	0
行事・活動に関すること	0
職員に関すること	1
ご利用者に関すること	0
その他	0
計	1

(5) 年間行事報告

行事名	実施日	内 容
ご当地フェア	4月28日、5月23日	エムズフード主催 全国ご当地メニュー
利用者懇談会	5月2日、9日、11日、15日、16日	グループ毎に開催
屋台フェスタ	6月12日、13日、16日	
洋品店訪問販売	6月21日、23日	ご自身で洋服選びや購入の機会を提供
天ぷらの日	7月10日、11日、12日	行事食として天ぷら等の食事を提供
焼肉昼食会	8月21日、22日、23日	屋外でジンギスカンを炭火で調理し、提供
敬老の集い	9月15日	65歳以上の方々を対象にお祝い ご利用者全員にお祝いの食事を提供
洋品店訪問販売	10月20日、27日	ご自身で洋服選びや購入の機会を提供
寿司の日	11月1日、2日、6日、17日、24日	職人によるにぎり寿司の提供
クリスマス忘年会	12月20日、22日	会食と演芸やゲームを楽しむ
餅つき	12月27日	餅つきで季節感や年中行事を体感する
新春ゲーム大会	1月1日	グループごとに新春祝いの催し
利用者懇談会	1月16日、22日、23日、29日、30日	グループ毎に開催
節 分	2月2日	ご利用者とともに豆まき
鍋の日	2月5日、6日、9日 3月4日、5日、8日	寄せ鍋、すき焼き等の食事を提供

特別養護老人ホーム和幸園 ～ since 1975 ～

1. 事業報告総括

ご利用者が、その人らしい生活を主体的に過ごせるように、ご利用者お一人おひとりを専門的に介護するための視点として「水分・常食・運動・排せ」の4つの基本ケアを中心とする自立支援介護に取り組みました。

2023年5月より新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類となり、ご利用者がコロナ禍前の生活を取り戻し、より活発な生活へと移行するために、運営方針を大きく転換することとなりました。基本的な感染対策の継続と感染拡大防止策の徹底により、前年度比では感染者発生件数は減少し、大規模なクラスターの発生を防止することができました。

経営面については、施設入居及びショートステイ利用稼働率をコロナ禍前の実績に戻すことができました。入院者数は例年よりも増加傾向となりましたが、入院者ベッドを速やかにショートステイで利用する等の対応による効果が奏功したと考えます。また、地域のニーズに応え、緊急ショートステイの受け入れを積極的に行い、地域の福祉拠点としての役割も担うことができました。

また、職員採用においては、10月から特定技能1号による職員の雇用を始めました。現在、6名の特定技能1号による介護職員が活躍しており、能力の高さと仕事への意欲の強さを感じ、今後の介護職員不足に対する施策の一翼を担ってくれると期待しています。

最後に、介護職員等の負担軽減、業務の効率化を目指したICT機器や介護ロボットの導入については、転倒等の事故防止及びバイタル確認のためのカメラ付き見守りセンサー「aams」を17ヵ所設置しました。今後も、機器の導入を積極的に行い、業務の負担軽減と業務の効率化を図っていきます。

2. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

① 自立支援介護

- ・自立支援介護WEB研修の参加を継続し、知識の習得と実践の評価をすることができました。
- ・定期的に、理事を講師に招き、自立支援会議での講義、事例への助言・指導を受けました。また、日本自立支援介護・パワーリハ学会顧問竹内孝仁先生を招聘し、認知症やこれからの介護施設の在り方等の研修を受けました。
- ・フロア会議にて個別ケア会議を実施し、月毎の水分、下剤や浣腸、食事形態、歩行量等を評価し、PDCAサイクル（毎月）による支援を行いました。

② ターミナルケア

- ・ご家族との情報共有を図り、可能な限りご利用者に寄り添っていただけるように支援を行いました。
- ・電話やLINEを活用して近況報告（写真送付含め）を行うとともに、こまめに状況の連絡をする等の配慮をしています。
- ・ご利用者やご家族の意向に沿った最期の時をお過ごしいただけるよう、多職種連携による支援を行い、年間を通じて11名のご利用者を施設内でお見送りしました。

③ 褥瘡の予防

褥瘡予防委員会を2ヶ月に1度開催し、褥瘡発生状況及び対応方法の情報共有と理学療法士による褥瘡予防のためのポジショニングや除圧についての勉強会を実施しましたが、年間を通じて36件の褥瘡が発生しました(3ヶ月以内に改善した方が15名、1年以内に改善した方が8名、治癒と発生を繰り返す方が5名、治療継続中の方が4名、褥瘡による入院が1名、他3名は退居)。皮膚観察時に発赤が継続している場合は褥瘡と判定し、理学療法士や作業療法士による個別のポジショニング指導や配置医師への報告、医療機関受診等で重症化予防に取り組むとともに、ご利用者全員の褥瘡防止計画作成と定期的な計画書更新を行い、早期改善に努めています。

④ 介護事故について

介護事故の総件数は380件となり、誤嚥・窒息の事故は15件と例年よりも増加傾向となりました。提供する食事の形態や介助方法等の見直しを個々に行い、再発防止に努めています。また、服薬事故については、人為的なミスによる事故であるため、ケアマニュアルの見直し、ケアの統一化を図り、事故防止に努めています。

⑤ 感染症予防

- ・感染対策のための換気、消毒の指導、居室の清潔保持のための居室点検を半年に1度実施しました。
- ・職員及びその家族も含めた健康観察を行い、体調不良時等には上司への連絡を徹底し、その都度出勤可否の判断をしました。ご利用者の新型コロナウイルス感染症発生(疑い)時には、早期に居室での対応を開始し、感染拡大の防止に努めました。
- ・ご家族からお持ちいただいた食品やユニットレクでの手作り食品の管理を徹底し、食中毒防止に努めました。

⑥ 身体拘束廃止及び虐待防止

身体拘束廃止委員会及び虐待防止委員会を定期的に開催し、切迫性、非代替性、一時性の3要件を満たさない身体拘束や絶対に起こしてはならない虐待が起こらない環境づくりを推進するため、計画的な職員育成、介護職員としての倫理観を学ぶための研修を開催しています。また、ご利用者やご家族からの苦情・要望から、介護方法や接遇について、職員へ個別に面談と指導を行い、速やかに改善を図るように努めました。

⑦ レクリエーション、クラブ活動の充実

基本的な感染対策を図りつつ、施設全体でのレクリエーションや敬老祭、クリスマス会の行事やクラブ活動、ユニット単位でのレクリエーション活動や外出会を実施し、ご利用者が楽しみを持って生活できる環境づくりに努めました。

⑧ 和幸園だより(広報誌)の発行

和幸園だよりをご家族等へ送付し、和幸園の取り組みとご利用者の笑顔を発信することができました。

⑨ ご家族との連携

ケアプラン更新時に、ご利用者の様子を報告するとともに、ご家族の意向の聞き取りを行いました。体調不良時や事故等が発生した際には、ご利用者の状態と今後の見通し、施設としての対応等について、迅速且つ丁寧にご家族への報告を心掛けました。面会については、平日での面会を中心に対応し、ターミナル期のご利用者に対しては、通年で居室での面会の機会を提供しました。

(2) 財務視点

年間入居稼働率については、目標稼働率が施設入居97.50%、ショートステイ90.00%に対して、施設入居は95.19%（114.23名）、ショートステイ103.06%（19.58名）となりました。施設入居の新規入居者30名、退居者32名と2年連続で30名以上の入退居がありました。また、入院者については1日平均で4.97名となりました。施設入居待機者が減少傾向にあり、市内他施設の入居稼働率が低下している状況で、早期に入居に結び付けることができたことは評価できます。また、入院者の増加に対し、ショートステイでの空床利用を進める等の対応を図り、全体での稼働率の低下を防止することができました。

ショートステイでは、ロングのショートステイ利用が継続して一定数あったことや緊急ショートステイ、困難ケースも積極的に受け入れをしていたこと、活動性の高い事業所として運動やレクリエーションを多く取り入れていることでリピーターが増加し、非常に高い実績を達成することができました。

(3) 人材視点

通年での退職者数は15名と前年度比で8名少なくなり、そのうち介護職員は9名と前年度比で6名減少しています。職員個々の状況を見ながら、主任・リーダーがこまめに声掛けや面談を行っていたことや新人職員個々の状況に合わせて、育成プログラムを柔軟に変更しながら育成を行っていたことが奏功したと考えています。その他にも、新人職員茶話会での職員同士の交流会を実施する他、役職者に対しても、リーダー茶話会、主任茶話会により日々の情報共有や意見交換ができる場を設けました。さらに、育児休暇を終えた職員が、職員専用のハピリース保育園を利用することで、スムーズな職場復帰ができました。一方で、新規採用は15名となり、採用が難しい介護職員の採用が9名、そのうちの6名は特定技能1号による採用となりました。特定技能1号による職員採用に舵を切りましたが、当初の不安を払拭する程の優秀な人材に恵まれ、法人としての新しい方向性を指し示すものとなり、法人全体で16名の採用を決定することとなりました。民間企業の景気が回復傾向にあることや近隣に競合する施設が新規オープンする等、人材の流出が懸念されましたが、特定技能1号による採用等、採用活動の幅を拡大したことにより、採用、退職者ともに、その影響を最小限に抑え、運営することができました。

(4) 地域貢献視点

当施設独自の「認知症状改善塾」を再開し、地域住民3名に参加いただきました。参加者に対し、当施設で取り組んでいる自立支援介護により認知症状の改善のための介護のノウハウを還元しました。また、福祉・介護分野の人材育成の場としての実習生の受け入れや福祉の仕事に係る情報発信として学生ボランティアの活動の場を提供しました。その他、社会福祉法人としての低所得者への利用料減額支援を継続し、年間7,700千円もの低所得者支援を継続しています。

(5) ガバナンス視点

運営基準や算定している各種加算については、算定要件を請求時及び定期的に確認し、基準違反や不正となる請求がないように留意しています。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況 (定員/入居120名、短期19名) 2024年3月31日現在

職名	配置基準数	現員数	備考
施設長	1名	1名	社会福祉士/介護福祉士/介護支援専門員
生活相談員	2名	4名	常勤4名 (介護支援専門員兼務2名) 社会福祉士4名/介護福祉士3名
介護支援専門員	2名	3名	生活相談員兼務2名、機能訓練指導員兼務1名
介護職員	46.7名 (常勤換算)	85名	常勤62名、非常勤23名 (常勤換算76.8名) : 介護福祉士52名
看護職員	4名 (常勤換算)	10名	常勤1名、併設施設兼務9名 (常勤換算4.2名)
医師	必要数	2名	定山溪病院 配置医 (週1回往診)
機能訓練指導員	1名	2名	常勤2名 (介護支援専門員兼務1名) 理学療法士、作業療法士
管理栄養士	1名	1名	常勤1名

(2) 職員配置比率

職種	常勤換算	算出基準：定員対する配置比率
介護職員	76.8名	定員139名 / 81.0名 1.72名
看護職員	4.2名	
計	81.0名	

(3) 職員研修実施状況

	研修名	講師	参加職種
4月 26日	高齢者の食支援	外部講師	介護職員、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、生活相談員
7月 8日	認知症あんしん生活実践塾 家族で治そう認知症 In 室蘭	医療福祉大学教授他	施設長、介護係長、介護職員
8月 29日	外国人介護人材受入オンライン研修	北海道保健福祉課	施設長、課長、係長
8月 29日	排泄研修（パットの当て方）	オムツメーカー	介護員、介護主任、係長
8月 30日	外国人材採用・定着セミナー&座談会	オンライン研修	施設長、課長、係長
9月 19日	ポジショニングについて	理学療法士	介護職員（委員会内研修）
9月 28日	外国人介護職員の円滑な受け入れ研修	北海道保健福祉課	施設長、課長、係長
11月 9日	「成年後見制度の概要」	司法書士	施設長、相談員
12月 13日	救命救急研修	看護職員（委員会内）	介護職員、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、生活相談員
1月 24日	感染症研修（ノロウイルス対応手順）	看護職員（委員会内）	介護職員、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、生活相談員
3月 4日	虐待の嫌疑への管理者の対応	オンライン研修	施設長、係長
3月 9日	「口から食べられる理想にむかって」	目白大学教授	施設長、係長、管理栄養士
3月 28日	ターミナルケア（主任会議内研修）	看護職員	介護主任、係長、相談員
年 12回	自立支援介護Web研修	外部講師	介護職員、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、生活相談員
随 時	緊急時対応（救命救急）2条・3条・4条	看護職員	介護職員、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、生活相談員
随 時	介護理念について	施設長	新人介護職員
随 時	認知症について	施設長	新人介護職員
随 時	基本ケア・食事・排泄・移動・感染・オンコールについて	介護主任・リーダー	新人介護職員
随 時	感染症について	看護職員	新人介護職員
随 時	記録・ターミナルケアについて	生活係長・リーダー	新人介護職員

(4) ご利用者状況

① 入退居状況

	新規入居者	退居者
男 性	12	13
女 性	18	19
計	30	32

② 退所理由

2023 年度		うちターミナルケア	2022 年度
ご逝去	14	9	19
長期入院	18	5	16
家庭復帰	0	0	2
他施設へ入居	0	0	0
計	32	14	37

③ 月別平均利用稼働率（定員／入居120名、短期19名）

	入 居		ショートステイ	
	2023 年度	2022 年度	2023 年度	2022 年度
4 月	95.50%	84.89%	106.14%	85.96%
5 月	94.22%	85.24%	112.05%	98.64%
6 月	95.50%	86.61%	98.25%	79.47%
7 月	95.65%	86.94%	111.38%	77.76%
8 月	94.41%	87.09%	107.3%	70.46%
9 月	95.36%	92.50%	100.7%	78.90%
10 月	95.11%	93.63%	106.45%	76.57%
11 月	96.89%	93.03%	110.53%	93.68%
12 月	96.02%	93.95%	102.89%	96.43%
1 月	95.32%	92.98%	98.13%	104.24%
2 月	94.34%	93.48%	85.48%	110.34%
3 月	93.90%	95.30%	97.45%	112.56%
年度平均	95.19%	90.47%	103.06%	90.42%

④ 年齢別入居者状況

	65 歳未満	65 ～ 74	75 ～ 84	85 ～ 89	90 ～ 94	95 ～ 99	100 ～	計
男 性	0	5	8	5	6	4	0	28
女 性	0	4	23	21	27	12	1	88
計	0	9	31	26	33	16	1	116

⑤ 新規入居者の状況

	人 数
自 宅	17
介護老人福祉施設	0
介護老人保健施設	3
介護療養施設	0
医療機関	10
他の福祉施設	0
計	30

⑥ 月別入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2022年度
入院者数	2	4	2	3	5	5	8	2	4	9	9	8	61	101
入院延日数	154	213	136	154	186	151	145	71	128	131	189	164	1,822	1,775

⑦ 新規入居者の入居時認知症自立度状況

認知症自立度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
II	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	5
III	2	1	5	0	2	2	2	2	2	2	1	2	23
IV	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
M	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3	1	6	2	3	2	3	2	2	3	1	2	30
III以上	66.6%	100%	83.3%	100%	66.6%	100%	66.6%	100%	100%	66.6%	100%	100%	83.3%

⑧ 新規入居者の入居時要介護状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護3	1	0	1	0	1	1	1	0	0	0	1	2	8
介護4	2	0	3	2	2	1	1	2	2	2	0	0	17
介護5	0	1	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	5
計	3	1	6	2	3	2	3	2	2	3	1	2	30

⑨ 事故報告件数

	事故件数	
	2023 年度	2022 年度
転倒・転落	143	128
打撲・外傷	33	27
あざ	83	17
服薬	41	28
異食	8	0
誤嚥	15	6
皮膚剥離	32	17
その他（ヒヤリハット含む）	25	10
計	380	233

⑩ 苦情受付件数

苦情内容	件数
介護等に関すること	2
設備に関すること	0
職員に関すること	1
その他	2
計	5

(4) 年間行事報告

※各ユニットで食事行事は定期的に実施

行事名	実施日	内 容
すき焼きの日	4月 14日	各ユニット実施 (13 ユニット)
ユニット外出会	5月～11月	ユニット毎に実施 (13 ユニット)
天ぷらの日	6月 5日、6日、7日、8日	揚げたての天ぷらの提供
クラブ活動	7月 ～ 3月	季節の創作・書道・麻雀実施
ジンギスカン	7月 3日、4日、6日、14日	ジンギスカン
花火大会	8月 4日	夜、花火の打ち上げ
4条祭り (4条フロア行事)	8月 4日	のど自慢と屋台
夏祭り (2条フロア行事)	8月 18日	和幸園中庭での夏祭り
敬老祭	9月 13日、14日、15日	祝寿対象者などへ記念品の贈呈、食事会等
秋祭り (1条フロア行事)	10月 6日	ショートステイユニットでの夏祭り
運動会 (3条フロア行事)	10月 25日	多目的ホールにて3条の4ユニットで実施
秋の味覚祭	11月 15日	焼き芋 (かぼちゃも) を炭で焼いて提供
クリスマス会	12月 20日、21日、22日、23日	会食と催し物など披露
餅つき	12月 28日	ご利用者と職員による餅つき
のど自慢大会	1月 ～ 2月	各ユニットでののど自慢大会
節 分	2月 3日	各ユニットにて豆撒き
寿司の日	2月 19日	お寿司を召し上がっていただく
鍋の日	3月 11日	各ユニットにて寄せ鍋
季節の料理 (1条フロア行事)	年1回 (2月)	1条季節の料理作り (クレープ作り)

医務部門

1. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

- ・配置医と直接連絡を取り詳細な情報伝達を行うことで、迅速な医療機関への受診や早期に治療を開始することができました。新型コロナウイルス等の感染症に感染したご利用者に対しても、即日服薬治療を開始することができ、感染拡大の防止に繋がりました。
- ・協力医療機関を含めた地域の医療機関との連携を強化し、ご利用者がスムーズに医療機関へ受診できる体制の構築を行いました。
- ・ターミナルケア導入期にご家族と面談を行い、ご家族の終末期への不安や戸惑いを和らげ、安心して看取りを支援することができました。また、残存能力に応じた自立支援を行い、最期まで人としての尊厳や自然な最期のあり方を尊重し、施設生活及びターミナルケアへの満足度向上に努めました。
- ・新型コロナウイルス等の感染対策を継続し、施設内での感染者発生を減少に努めました。また、社会情勢を鑑み、ご利用者がコロナ禍前の生活を取り戻すことができるよう取り組みました。

(2) 財務視点

- ・ターミナル期のご利用者に対し、ご利用者の症状やご家族の意向により施設で看取ることのできる症例を積極的に受け入れました。
- ・新型コロナウイルス等の感染症対策を図りながら、各施設ショートステイの新規受け入れを推進しました。

(3) 人材視点

- ・人員不足や急遽の場合でも、幅広く柔軟に対応できる職員の育成を進めることができました。
- ・コロナ禍では研修会への参加が不足していたため、リモート研修も含めて研修参加の機会をさらに増やしていきます。

(4) 地域貢献視点

- ・新型コロナウイルス等の感染症対策を図りながら、両施設ショートステイでの緊急ケース等の受入れに取り組んでいます。
- ・町内会夏祭り（救護班）、石山地区清掃活動（春・秋 年2回）に参加しました。

(5) ガバナンス視点

- ・職員個々のスキルや経験に応じた育成、指導を行っています。安定した質の高い医療サービスの提供を行うため、職員配置体制の工夫と個々のスキルアップを図ることで、組織力の強化に取り組んでいます。

2. 医療業務実績

(1) 和幸園

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医療処置数	221	287	320	428	322	300	338	308	234	286	210	239	3,493
胃ろう栄養	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	25
浣腸	69	89	98	83	69	70	75	89	92	63	61	57	915
ターミナルケア	15	19	25	23	23	25	24	27	28	28	28	28	293
ご逝去	0	2	3	0	1	2	1	0	1	0	0	1	11
救急搬送 日中	2	1	0	1	0	0	0	0	2	2	0	1	9
救急搬送 夜間	1	1	1	0	1	0	0	0	2	0	1	1	8
待機出動	6	2	5	6	5	5	2	4	4	2	4	3	48

(2) グリンハイム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医療処置数	188	235	225	257	217	188	197	190	89	116	128	153	2,183
胃ろう栄養	6	7	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	76
ターミナルケア	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	8
救急搬送	1	1	2	1	1	1	0	0	1	0	2	0	10

栄養・食事部門

1. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

新型コロナウイルス等の感染対策を実施したうえで、可能な限り食事行事を行うことができるように努めるとともに、食事形態の幅を広げることやおいしい食事の追求のため、委託業者と定期的に意見交換を行いました。また、栄養ケアマネジメントを行い、ご利用者個々にあった栄養ケアの提供を行いました。

(2) 財務視点

各施設における栄養関係の各種加算について、算定要件を確認し、適切に算定を継続することができました。支出に関しては、物品購入、修理、行事等、計画的に予算内で支出することができました。

(3) 人材視点

研修、勉強会の開催方法がリモート研修となったことで、各自のスケジュールに合わせた参加が可能となりました。今後、外部研修会等へも積極的に参加し、最新の情報の取得に努めます。また、施設管理栄養士と委託業者所属管理栄養士や厨房職員との定期的な全体ミーティングは、新型コロナウイルス感染対策により開催を休止し、必要に応じたミーティングと日々のコミュニケーションの強化により情報の共有と食事の質の向上に取り組みました。

(4) 地域貢献視点

施設利用者、ショートステイ利用者の栄養相談を実施しました。また、和幸園で行っている地域貢献事業「認知症状改善塾」に管理栄養士として参画しました。

(5) ガバナンス視点

各施設において新型コロナウイルス等の感染者が発生した際には、栄養・食事部門における感染者発生時の特別な対応を法人の方針に沿って行いました。また、他職種との意見交換を行い、適切な栄養ケアマネジメントを実践することができました。

2. 栄養・食事業務実績

(1) 平均食数(1日あたり/通年)

施設・事業所区分		食数
グリーンハイム	入居	100
	短期入居	4
生活介護事業所グリーンハイム		13
和幸園	入居	111
	短期入居	18
和幸園デイサービスセンター		29
計		275

(2) 食事形態

	グリーンハイム	和幸園	計
常食	61	57	118
やわらか食	20	36	56
ゼリー食	12	18	30
胃婁	6	3	9

(3) 特別食

	グリーンハイム	和幸園	計
糖尿病	9	10	19
脂肪制限	3	2	5
心臓病	0	10	10
腎臓病	3	6	9
貧血	0	0	0
低残渣食	0	0	0
計	15	28	43

(4) 年間行事実績及びポイントメニュー

	行 事	ポイントメニュー
4月	和幸園デイサービス誕生会 ご当地メニュー(昼)	赤飯 各地のご当地メニュー
5月	子供の日(5日) 和幸園デイサービス誕生会 ご当地メニュー(昼)	赤飯、筑前煮、さくら漬け、水ようかん ちらし寿司 各地のご当地メニュー
6月	和幸園デイサービス誕生会 和幸園ジンギスカン・チャンチャン焼き グリーンハイムジンギスカン	赤飯 ジンギスカン・チャンチャン焼き 天ぷら(えび・きす・なすび等)、うま煮、フルーツ、サラダ等
7月	土用の丑の日 グリーンハイム天ぷらバイキング 和幸園デイサービス誕生会	うなぎちらし、すまし汁、 焼き肉 ちらし寿司
8月	和幸園デイサービス誕生会 グリーンハイム甘味処 生活介護事業所グリーンハイム焼き肉	赤飯 焼き鳥 焼き肉
9月	敬老の日 生活介護事業所グリーンハイム焼き肉 和幸園デイサービス誕生会	赤飯、煮しめ、焼き魚、てんぷら、茶碗蒸し、なます、お吸い物 焼き肉 ちらし寿司
10月	和幸園デイサービス誕生会 グリーンハイム蕎麦の日	赤飯 手打ち蕎麦を楽しむ
11月	グリーンハイム寿司の日 和幸園味覚祭 和幸園デイサービス誕生会	握り寿司(マグロ、サーモン、カレイ、ツナマヨ、いくら、エビ、ホタテ等) 栗ごはん、石狩汁 ちらし寿司
12月	グリーンハイム・和幸園クリスマス会 餅つき大会 大晦日(31日) 和幸園デイサービス鍋の日	オードブル・ケーキ等 納豆餅、お汁粉 年越しそば、黒豆等 寄せ鍋
1月	元旦(1日)、三が日、七草(7日) 鏡開き 生活介護事業所グリーンハイム鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	おせち料理、雑煮、お寿司等、七草(七草粥) お汁粉 寄せ鍋・すき焼き 赤飯
2月	節分 生活介護事業所グリーンハイム鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	太巻き、いなり 寄せ鍋・すき焼き 赤飯
3月	ひなまつり(3日)、お彼岸 生活介護事業所グリーンハイム・和幸園鍋の日 和幸園デイサービス誕生会 和幸園寿司の日	ちらし寿司、すまし汁(アサリ、三つ葉)、炊き合わせ、イチゴ饅頭、手作りおはぎ 寄せ鍋・すき焼き ちらし寿司 海鮮丼

訓練部門

【グリーンハイム機能訓練】

1. 事業報告総括

- ・リハビリテーション実施計画書に基づくリハビリテーションの他、ご利用者・ご家族のニーズを汲み取り、個別訓練や機械器具を用いた自主訓練等を行いました。また、日々の業務やご利用者の経過記録の整備を適正に行いました。
- ・ご利用者の生活状況等を把握したうえで、継続可能な生活リハビリや生活リハビリに繋がる介助方法を介護職員等と検討し、助言・提案を行いました。
- ・車いすや補装具等を使用し、安全・安心な生活を維持し、有意義な時間を過ごせるように支援するため、車いすカンファレンスの定期的開催や義肢装具カンファレンスの随時開催により、個々のニーズに合わせた修理や各種申請を行いました。
- ・理学療法士として、ご利用者個々のニーズに合わせた福祉用具（ポジショニング枕・福祉靴・自助具等）の提案やご利用者・介護者に負担の少ない介護方法や介護用品（スライディングシートやボード・グローブ等）を提案しました。
- ・新型コロナウイルス感染対策を実施したうえで、他ご利用者との関わりを持つ機会や集団の中での役割を持つ機会となる集団訓練を行い、リハビリテーションの効果の他に、社会性を保持することも視野に入れた支援を実践しました。また、ご利用者個々のニーズによっては、和幸園所属の作業療法士に相談し、訓練を行いました。
- ・ご利用者個々の状況に合わせた創作活動（脳ゲーム・脳トレパズル・折り紙作品・塗り絵・貼り絵等）を提案し、ご本人の希望に合わせて展示等を行いました。

2. 訓練業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別訓練	125	107	122	127	113	86	98	124	103	113	110	114	1,342
集団訓練	18	27	18	32	19	15	3	17	12	24	17	30	232
参加延べ人数	143	134	140	159	132	101	101	141	115	137	127	144	1,574
リハ日数	20	19	21	20	21	19	17	21	18	19	19	20	234
1日平均延べ人数	7.15	7.05	6.67	7.95	6.29	5.32	5.94	6.71	6.39	7.21	6.68	7.20	6.73

【和幸園機能訓練】

1. 事業報告総括

- ・個別機能訓練加算の適正な算定のため、個別機能訓練計画書及び実施表作成、実施状況確認等の記録整備を継続しました。また、科学的介護推進体制加算算定のため、LIFEの入力を継続しました。
- ・通常の個別機能訓練の他、必要に応じて、身体機能や残存機能の向上に繋がる個別訓練を行いました。また新型コロナウイルス感染対策を実施したうえで、ユニット単位の集団レクリエーションの継続や新春のど自慢大会の開催、楽しみのある生活と活動性を高めるための工夫を凝らしたレクリエーション、リハビリテーションに取り組みました。

- ・各ユニット外出レクへの参加や訓練室主催の買い物ツアー等、外出する機会の提供に取り組みました。
- ・趣味活動を提供する場としてクラブ活動（書道・創作・麻雀）の企画・運営に取り組みました。
- ・自立支援介護の推進を図るための離床時間拡大に伴い、車いすや椅子座位での安全・安楽なシーティングの検討を行い、座・背クッションの調整と必要に応じて姿勢改善のためのクッション選定、シーティング調整を実施しました。
- ・ご利用者、介護職員の双方にとって安全な介護の実践のために、移乗介助方法の助言・指導や必要に応じてスライディングシートやポジショニンググローブ等の福祉用具の選定、使用方法の助言・指導、靴の選定を行いました。また、介護負担軽減のための介護ロボット（移乗介助機器等）の活用を推進しました。
- ・褥瘡予防、褥瘡の悪化防止として、臥床時のマットレスや座クッション、ポジショニングピローの選択と検討を行うとともに介護職員へポジショニングや体位交換、動作の助言・指導を行いました。
- ・摂食、嚥下困難者に対し、嚥下状態を確認したうえで、食形態や座位姿勢、食器や自助具、食具の選定を行うとともに口腔マッサージや嚥下体操、口腔体操を行いました。
- ・施設内研修では、「職員の腰痛予防」、介護職員の新人研修では、「移乗」を担当し、専門職として施設の職員育成に取り組みました。
- ・ショートステイでは、個別ケアの一環としてご利用者やご家族、ケアマネジャーとの連携を図り、在宅生活を継続できるよう助言や指導を行いました。
- ・活気あるショートステイを定着できるよう介護職員主体の「ショートステイレクリエーション」の企画、運営を行いました。
- ・ユニット職員の要請により、ケアサポートとして移乗介助や食事、排泄介助や歩行、掃除等のフォローを行いました。

2. 訓練業務実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別訓練	入居	40	49	51	46	42	35	48	66	62	46	73	55	613
	ショートステイ	49	52	34	39	25	36	35	55	48	17	21	24	435
集団訓練	入居	110	99	109	105	110	108	113	116	108	81	89	68	1,216
	ショートステイ	11	20	10	12	9	11	10	18	1	15	15	7	139
リハ日数		23	21	23	22	21	22	23	24	22	20	23	21	265
1日平均人数		9.13	10.48	8.87	9.18	8.86	8.64	8.96	10.63	9.95	7.95	8.61	7.33	9.07

通所事業部各事業所の事業報告

和幸園デイサービスセンター ～ since 1993 ～

1. 事業報告総括

新型コロナウイルス感染症が感染法上の5類となり、全面中止していた外出行事等を再開、日中活動が大きく変化する年となりました。ご利用者、ご家族のニーズに合わせたサービス提供に改めて着手する1年となり、感染症対策により自粛を余儀なくされていた活動を徐々に緩和していきました。お花見や紅葉見学等の外出行事や近隣ショッピングセンターへの買い物レク、春から秋にかけてのパークゴルフレク等を行い、ご利用者に喜んでいただくことができました。一番多くの時間を過ごす事業所内での活動でも、日々楽しんでいただけるように様々な工夫を凝らし、日中活動の充実に取り組み、個々のご利用者のニーズに沿ったサービス提供に努めました。また、自立支援介護を実践する事業所として、幅広い知識と柔軟な技術を深めるために定期的な研修会を開催し、専門性の向上に取り組みしました。

経営面では、新規ご利用者の増加により、上半期は計画通りに実績を伸ばしていましたが、2023年11月に発生したご利用者と職員の新型コロナウイルス感染症の発生により、利用実績が大きく減少し、年間平均利用実績は27.84名と目標を下回る結果となりました。しかし、新規登録者数37名、廃止者数32名と前年比で登録者は増加しており、今後の事業の成長を期待できるものと考えています。

ご利用者等のニーズに応えられるよう事業所としての専門性の向上を図るとともに、各関係機関との連携を強化し、ご利用者にとって安全・安心な笑顔あふれる事業所運営に取り組んでいきます。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2024年3月31日現在

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士／精神保健福祉士 併設事業所管理者兼務
生活相談員	3	1	2	0	0	介護福祉士3名 介護職員兼務2名
介護職員	18	8	2	8	0	常勤10名 非常勤8名：介護福祉士13名
看護職員	4	0	0	0	4	機能訓練指導員兼務4名
機能訓練指導員	5	1	0	0	4	理学療法士、看護職員 看護職員兼務4名

(2) 職員研修実施状況

事業所内定期研修

基本ケア、自立支援介護について、全体会議内において実施

(3) ご利用者状況 (基準: 2024年3月利用者)

① 利用登録者状況

※ () 内は入院等の休止者

2023. 3. 31	2023. 4. 1~2024. 3. 31		2024. 3. 31
登録者	新規登録者	廃止者	登録者
101(19)	37	32	106(8)

② 年齢別状況

~59	60~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~	計	
								2023年度	2022年度
1	4	6	11	14	35	24	3	98	82

③ 要介護状態区分状況

	要支援1	要支援2	要介護					計
			1	2	3	4	5	
2023年度	9	15	34	27	8	1	4	98
2022年度	7	12	33	17	8	2	3	82

④ ADL区分

	自立	一部介助	全介助
歩行	66 (車椅子自走含む)	30	2
排泄	80	16	2
食事	96	2	0
入浴	56	40	2
更衣	68	26	4

⑤ 廃止理由状況

	2022年度	2023年度
死亡	9	8
入所・入居	10	11
入院	11	5
引越し	1	2
その他	11	6
計	42	32

⑥ 月別利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2022年
実利用者数	85	87	86	86	89	94	90	89	85	82	85	83	1,041	1,031
延利用者数	716	756	698	747	747	766	767	645	701	623	708	755	8,629	8,221
要支援1	31	27	33	33	30	37	32	29	31	33	32	34	382	349
要支援2	79	78	81	89	90	107	108	76	95	99	98	104	1,104	810
要介護1	294	308	274	289	300	301	302	262	263	211	249	296	3,349	3,805
要介護2	184	190	175	191	178	190	202	174	177	156	198	191	2,206	1,847
要介護3	88	108	93	102	106	92	81	74	82	73	82	81	1,062	809
要介護4	21	24	22	24	25	20	23	12	13	11	4	4	203	247
要介護5	19	21	20	19	18	19	19	18	40	40	45	45	323	354
開所日数	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	25	26	310	310
平均利用者数	28.64	28.00	26.85	28.73	27.67	29.46	29.50	24.81	26.96	25.96	28.32	29.04	27.84	26.52

(4) 苦情受付件数

	件数
介護に関すること	1
職員に関すること	2
その他	0
計	3

(5) 事故報告件数

	件数	うち医療機関受診	2022年度
転倒	16	4	11
介護上の事故	1	0	0
異食	0	0	0
誤薬	0	0	0
その他	1	0	10
ヒヤリハット	2	0	3
計	20	4	24

(6) 行事及び活動実施状況

日 程	行事及び活動内容	延べ参加人数
4月6日～4月8日(3日間)	スイーツレク	90名
5月16日～5月19日(4日間)	月寒公園外出レク	62名
6月9日～6月11日(3日間)	ピリカコタン	53名
7月11日～7月14日(4日間)	滝野外出レク	65名
8月～10月	ドライブレク	106名
8月8日～8月10日(3日間)	七夕・夏祭り	78名
9月18～20日(3日間)	敬老会	対象者24名
10月16日～10月19日(4日間)	紅葉レク	64名
11月16・21・22日(3日間)	お寿司ランチ	84名
12月21・22・23・25日(4日間)	クリスマス会	119名
1月6・8・9・10日(4日間)	お正月レク	107名
2月1日～2月3日(3日間)	節分(年男、年女記念撮影含む)	80名
3月13日～3月18日(6日間)	年度末ゲーム大会	211名

(7) 地域貢献活動

石山地区清掃活動(春・秋 年2回)

和幸園芸術の森デイサービスセンター のえるの森 ～ since 2007 ～

1. 事業報告総括

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に分類されたことを受け、外出を含めた各種行事を実施することができました。普段の事業所内での様子とは違い、戸外で生き生きと目を輝かせ、笑顔で楽しめる姿に喜びと行事等の活動の重要性を強く感じました。また、季節感を感じていただきながらの家庭菜園作業や日常生活の中での軽作業を行っていただくことで、ご自身の役割を実感していただけるように努めました。日々の送迎時にはご利用者の変化だけではなく、ご家族の様子や変化にも注意を向け、事業所の中での情報共有や担当ケアマネへの情報伝達を心掛けました。

経営面では、1日平均利用者数9.5名を目標として、事業所運営に取り組みました。新規ご利用者については、法人内居宅介護支援事業所からの紹介が4名、法人外居宅介護支援事業所からの紹介が10名となりました。一方、施設入居等による廃止者数が14名となり、2024年3月31日時点での登録者数は26名、年間平均利用者数は9.28名となりました。年間目標実績を下回る結果となりましたが、年間相談件数は25件と増加しており（法人外居宅介護支援事業所からの相談件数19件）、当事業所の認知症ケアに対する評価や理解が深まっていることを実感しています。今後、当事業所の強みや特色等の分かりやすい情報発信を行うとともに、問い合わせや相談時、体験利用時には安心していただける雰囲気づくりと個々のニーズに沿った専門性の高いケアの提案を行い、認知症ケアの専門の事業所として選ばれる事業所となるように努めていきます。

今後もご利用者やご家族の気持ちに寄り添いながら、専門性の高い認知症ケアを実践し、地域に暮らす認知症の方々がその人らしく暮らしていけるように、心を込めたケアを実践していきます。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2024年3月31日現在

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非 常 勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	介護福祉士 生活相談員兼務
生活相談員	3	0	3	0	0	介護福祉士3名 管理者兼務1名 介護職員兼務2名
介護職員	12	0	2	10	0	常勤2名、非常勤10名：介護福祉士7名
看護職員	3	0	0	0	3	機能訓練指導員兼務3名
機能訓練指導員	3	0	0	0	3	看護職員兼務3名

(2) 職員研修実施状況

法人研修参加及び認知症ケア・介護技術（セルフマネジメント等）の事業所内研修を実施

(3) ご利用者状況（基準：2024年3月利用者）

① 利用登録者状況

	2023. 3. 31	2023. 4. 1～2024. 3. 31		2024. 3. 31
	登録者	新規登録者	廃止者	登録者
男性	4	2	3	3
女性	22	12	11	23
計	26	14	14	26

② 年齢別状況

	55～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計		平均年齢	
									2023年度	2022年度	2023年度	2022年度
男性	0	0	0	1	1	1	0	0	3	4	82.3	84.0
女性	0	0	2	2	5	5	7	2	23	22	85.9	85.1
計	0	0	2	3	6	6	7	2	26	26	84.1	84.6

③ 要介護状態区分状況

	介護度						計
	支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
2023年度	0	9	9	5	3	0	26
2022年度	0	10	7	5	4	0	26

④ ADL状況

	自力可能			一部介助			全介助		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
歩行	3	21	24	0	2	2	0	0	0
排泄	3	19	22	0	4	4	0	0	0
食事	3	20	23	0	3	3	0	0	0
入浴	0	10	10	3	11	14	0	2	2
着脱衣	0	19	19	3	3	6	0	1	1

⑤ 認知機能状況

	記憶障害				失見当識			
	重度	中度	軽度	計	重度	中度	軽度	計
男性	1	2	0	3	1	0	2	3
女性	13	5	5	23	4	9	10	23
計	14	7	5	26	5	9	12	26

⑥ 認知症類型

類 型	2023年度	2022年度
アルツハイマー型認知症	12	16
レビー小体型認知症	1	0
脳血管性認知症	0	0
ピック病（前頭側頭型）	0	0
その他（混合型・不明）	13	10

⑦ 廃止理由状況

	男 性	女 性	計	
			2023 年度	2022 年度
死 亡	0	0	0	1
長期欠席	0	0	0	1
入院・入居	3	10	13	13
その他	0	1	1	1
計	3	11	14	16

⑧ 利用者世帯状況

		独 居	夫 婦	息子と同居	娘と同居	その他	計
男 性		0	2	1	0	0	3
女 性		1	7	6	7	2	23
計	2023 年度	1	9	7	7	2	26
	2022 年度	3	12	4	5	2	26

⑨ 月別利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2022年度
実利用者数	26	27	27	27	28	29	29	26	27	26	25	25	322	343
延利用者数	209	231	243	250	273	267	256	246	235	208	220	239	2,877	2,811
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	69	70	67	67	70	73	57	50	53	59	74	78	787	1,103
要介護2	50	70	65	88	89	92	90	87	68	63	68	78	908	472
要介護3	54	56	59	51	71	56	58	55	64	55	57	47	683	811
要介護4	28	28	29	20	20	23	30	29	25	16	21	36	305	340
要介護5	8	7	23	24	23	23	21	25	25	15	0	0	194	85
開所日数	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	25	26	310	302
平均利用者数	8.36	8.56	9.35	9.62	10.11	10.27	9.85	9.46	9.04	8.67	8.80	9.19	9.28	9.30

(4) 苦情受付件数

	件 数	
	2023 年度	2022 年度
介護等に関すること	0	0
職員に関すること	0	0
その他	0	0
計	0	0

(5) 事故報告件数

	件 数	
	2023 年度	2022 年度
転 倒	0	4
介護上の事故	0	0
異 食	0	1
その他	3	6
ヒヤリハット	0	5
計	3	16

(6) 行事及び活動実施状況

	行 事
4 月	音楽療法
5 月	端午の節句・のえるの森誕生会～祝 16 歳～・苗植え・音楽療法
6 月	音楽療法
7 月	音楽療法・滝野公園外出会
8 月	夏祭り・音楽療法
9 月	敬老会・動物園外出会・音楽療法
10 月	音楽療法・避難訓練
11 月	音楽療法・運営推進会議
12 月	クリスマス会・音楽療法
1 月	初笑い・音楽療法
2 月	節分・音楽療法
3 月	ひな祭り・音楽療法

(7) 地域貢献活動

町内会への広報誌配布 (介護・福祉事業所の周知、認知症ケア等の啓発活動)

和幸園自立訓練型デイサービスセンター あうるの森 ～ since 2018 ～

1. 事業報告総括

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に分類されたことを受け、ご利用者がコロナ禍前の生活を取り戻し、より活発な生活へと移行することを目標としながらも、感染対策を継続するという難しい舵取りが求められた1年となりました。事業所としては、クラスターが発生することもなく、1年間安全にご利用者への支援を継続することができました。

事業所の職員体制としては、正職員1名とパート職員3名の退職がありましたが、法人内での異動や新規職員の採用により安定した運営を継続することができました。

経営面では、新型コロナウイルスの影響による利用控えや体調不良、私用での休止、冬期間の悪天候の影響を受けたこともあり、年間を通して1日の平均利用者数は13.95名と前年度実績から0.95名の減少となり、目標を達成することができませんでした。年間新規利用者数は21名と前年度比で増加しましたが、疾病等の悪化による入院や施設入所、長時間型デイサービスへの移行等の理由による廃止者が18名となりました。年度末の登録者数は67名と昨年度と比べ微増しましたが、利用回数が1回のご利用者が多いこと、また体調不良や私用での休止が例年よりも多かったことが実績の低下を招きました。

ご利用者やケアマネジャーに選ばれる事業所になれるよう、ケアの質を向上させ現在行っているプログラムだけではなく、より進化した機能訓練プログラムの作成を行い、魅力ある事業所づくりを推進していきます。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2024年3月31日現在

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非 常 勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士、精神保健福祉士、主任介護支援専門員、併設事業所センター長・管理者兼務
生活相談員	3	0	3	0	0	介護福祉士3名 介護職員兼務3名
介護職員	7	0	3	4	0	常勤3名、非常勤4名：介護福祉士5名 生活相談員兼務3名
機能訓練指導員	1	1	0	0	0	理学療法士

(2) 職員研修実施状況（事業所内）

	研修名
4月17日	事故対応・リスク管理・緊急時対応について
6月19日	認知症ケアについて
9月11日	バイタル測定・脱水・熱中症・浮腫について
10月16日	身体拘束、虐待防止について
11月20日	自立支援介護、基本ケアについて
12月18日	感染症対策について
2月19日	地域密着通所介護の運営基準について
3月11日	BCP～災害・感染症について

(3) ご利用者状況（基準：2024年3月利用者）

① 利用登録者状況

	2023. 3. 31	2023. 4. 1～2024. 3. 31		2024. 3. 31
	登録者	新規登録者	廃止者	登録者
男性	29	12	9	32
女性	35	9	9	35
計	64	21	18	67

② 年齢別状況

	55～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計	平均年齢
男性	0	1	7	6	4	8	7	0	33	81.9
女性	0	0	1	5	11	9	7	1	34	84.7
計	0	1	8	11	15	17	14	1	67	83.3

③ 要介護状態区分状況

	要支援1	要支援2	要介護					計
			1	2	3	4	5	
男性	7	7	10	5	2	1	0	32
女性	18	10	6	1	0	0	0	35
計	25	17	16	6	2	1	0	67

④ ADL状況

	自力可能			一部介助			全介助		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
歩行	28	29	57	4	6	10	0	0	0
排泄	31	35	66	1	0	1	0	0	0
食事	32	35	67	0	0	0	0	0	0
入浴	22	31	53	8	4	12	2	0	2
着脱衣	28	34	62	4	1	5	0	0	0

⑤ 疾病別利用状況

	2023 年度	2022 年度	疾病種別	2023 年度	2022 年度
関節疾患（膝・腰・股・肩）	43	30	呼吸器疾患	3	2
糖尿病	10	8	統合失調症	1	1
認知症	8	13	脳梗塞等後遺症	18	13
鬱病	2	2	心疾患	19	8
パーキンソン病関連疾患	3	3	その他	49	11

⑥ 廃止理由状況

	男 性	女 性	計	
			2023 年度	2022 年度
死 亡	0	0	0	4
長期欠席・体調不良	3	3	6	0
入院・入居	2	3	5	4
その他（他デイ等）	4	3	7	6
計	9	9	18	14

⑦ ご利用者世帯状況

	独 居	夫 婦	息子と同居	娘と同居	その他	計
男 性	2	21	1	2	6	32
女 性	14	8	2	5	6	35
計	16	29	3	7	12	67

⑧ 月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2022年
実利用者数	58	59	64	64	62	61	60	61	59	66	61	59	734	754
延利用者数	274	291	332	321	289	292	311	299	263	257	280	293	3,502	3,786
要支援1	85	81	85	81	75	81	87	90	74	74	83	84	980	998
要支援2	77	81	92	84	74	75	69	61	56	57	71	95	892	1,063
要介護1	65	75	91	92	79	76	89	90	82	79	73	66	957	981
要介護2	12	20	21	30	30	34	35	38	32	29	31	29	341	364
要介護3	32	27	34	25	24	17	18	8	8	6	14	10	223	355
要介護4	3	7	9	9	7	9	13	12	11	12	8	9	109	25
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
開所日数	20	20	22	21	21	21	22	22	20	20	21	21	251	254
平均利用者数	13.70	14.55	15.09	15.29	13.76	13.91	14.14	13.59	13.15	12.85	13.33	13.95	13.95	14.90

(4) 苦情受付件数

	件 数	
	2023 年度	2022 年度
介護等に関すること	0	0
職員に関すること	0	0
その他	0	0
計	0	0

(5) 事故報告件数

	件 数	
	2023 年度	2022 年度
転 倒	2	4
介護上の事故	5	1
送迎関連	1	0
その他	0	1
ヒヤリハット	1	4
計	9	10

(6) 地域貢献活動

「いしやま朝市バス」の運行支援

生活介護支援事業所グリーンハイム ～ since 1996 ～

1. 事業報告総括

新型コロナウイルス感染症は感染症法上で5類に移行となりましたが、感染拡大の防止のために基本的な感染対策を継続し、運営を行いました。ご利用者、職員が感染者となることはありましたが、感染が拡大することなく事業所の運営を継続することができました。ご利用者、ご家族には、事業所の感染対策にご協力頂いたこと、そして職員には厳しい環境の中で献身的なケアを継続してくれたことに感謝しています。

経営状況としては、目標であった1日平均利用者数14.0名を達成することはできませんでしたが、1日平均利用者数が13.71名と、前年度比で0.99名(延べ276名増)の実績向上となりました。障がい支援区分5・6の割合は66%を超え「人員配置体制加算Ⅰ」の算定を継続することができました。2024年度においても、身体に障がいをお持ちの方をケアできる事業所として、重度ご利用者の受け入れを継続していくとともに、安定経営を目標として日々の実績管理に努めていきます。

職員状況としては、年間を通じて欠員することなく運営することができました。今後も働きやすい職場環境を整備し、事業所を支えている人財を大切に事業所の安定運営に取り組んでいきます。

今後は、ご利用者の高齢化による利用廃止者の増加が予想されるため、相談支援事業所グリーンハイムとの連携強化を図り、また、ショートステイと併用が可能な事業所である強みを最大限に活かし、事業所を成長させていきます。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2024年3月31日現在

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士／精神保健福祉士 併設事業所管理者兼務
サービス管理責任者	1	1	0	0	0	介護福祉士
介護職員（生活支援員）	15	3	0	12	0	常勤3名、非常勤12名（常勤換算9.6名） ：介護福祉士9名
看護職員	2	0	0	0	2	機能訓練指導員兼務2名（常勤換算0.5名）
機能訓練指導員	2	0	0	0	2	看護職員兼務2名（常勤換算0.2名）

(2) 職員研修実施状況

法人研修参加及び障害特性等の事業所内研修を毎月実施

(3) ご利用者状況（基準：2024年3月実利用者数）

① 利用登録者状況

	2023. 3. 31	2023. 4. 1 ～ 2024. 3. 31		2024. 3. 31
	登録者数	新規登録者	廃止者	登録者数
男 性	16	3	1	18
女 性	25	1	5	21
計	41	4	6	39

② 年齢別状況

	～20 歳未満	20～30 歳未満	30～40 歳未満	40～50 歳未満	50～60 歳未満	60～70 歳未満
男 性	0	1	4	2	2	3
女 性	0	1	3	9	2	2
計	0	2	7	11	4	5
	70 歳～		計	最低年齢	最高年齢	平均年齢
男 性	6		18	23	78	56.06
女 性	4		21	28	84	52.52
計	10		39			54.15

③ 疾患別・障害程度区別状況

	疾患別状況			障がい支援区別状況									
	男 性	女 性	計	2		3		4		5		6	
				男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
脳性麻痺	3	8	11	0	0	1	0	0	1	0	2	2	5
脳血管障害	5	3	8	0	0	1	0	2	2	1	0	1	1
心臓病	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
頭部外傷	2	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
視覚障害	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
リウマチ	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
知的障害	4	1	5	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0
その他	4	6	10	2	0	1	2	0	1	0	0	1	3
計	18	21	39	2	0	3	3	5	4	2	3	6	11

④ ADL 状況

	食 事				更 衣			
	全介助	一部介助	自 立	計	全介助	一部介助	自 立	計
脳性麻痺	4	3	4	11	7	3	1	11
脳血管障害	1	0	7	8	1	5	2	8
心臓病	0	1	0	1	0	1	0	1
頭部外傷	0	1	1	2	1	0	1	2
視覚障害	0	1	0	1	0	1	0	1
リウマチ	0	1	0	1	1	0	0	1
知的障害	0	2	3	5	1	2	2	5
その他	3	3	4	10	5	3	2	10
計	8	12	19	39	16	15	8	39
	排 泄				入 浴			
	全介助	一部介助	自 立	計	全介助	一部介助	自 立	計
脳性麻痺	7	2	2	11	8	3	0	11
脳血管障害	1	2	5	8	1	6	1	8
心臓病	0	1	0	1	1	0	0	1
頭部外傷	0	1	1	2	1	0	1	2
視覚障害	0	1	0	1	0	1	0	1
リウマチ	0	1	0	1	1	0	0	1
知的障害	2	3	0	5	3	2	0	5
その他	4	3	3	10	5	5	0	10
計	14	14	11	39	20	17	2	39

⑤ 廃止理由状況

	男 性	女 性	計	2022 年度
死 亡	0	1	1	0
長期入院	0	0	0	0
施設入居	0	1	1	1
地域移行	0	0	0	0
その他	1	3	4	1
計	1	5	6	2

⑥ 月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2022年度
実利用者数	41	42	42	43	43	41	42	41	42	42	41	39	499	451
延利用者数	330	326	341	337	349	321	335	298	312	293	306	305	3,853	3,577
区分2	0	2	4	4	5	14	14	15	14	11	13	12	108	0
区分3	53	49	45	48	46	30	32	28	35	33	36	29	464	811
区分4	52	51	52	56	67	57	65	65	72	62	63	73	735	458
区分5	39	42	50	44	43	39	42	37	30	30	29	27	452	330
区分6	186	182	190	185	188	181	182	153	161	157	165	164	2,094	1,978
開所日数	23	23	25	24	25	23	24	23	23	22	22	24	281	281
平均利用者数	14.35	14.17	13.64	14.04	13.96	13.96	13.96	12.96	13.57	13.32	13.91	12.71	13.71	12.72
区分5・6割合	68.18	68.71	70.38	67.95	66.19	68.54	66.87	63.76	61.22	63.82	63.40	62.62	66.08	64.52

(4) 苦情受付件数

	件 数	第三者機関依頼
職員との関係	0	0
運営等関係	0	0
計	0	0

(5) 事故発生状況

	件 数	施設外受診対応	2022 年度
転 倒	0	0	3
誤 薬	0	0	0
介護事故	0	0	1
その他	0	0	3
計	0	0	7

(6) 行事及び活動実施状況

	行 事	創作活動
4月	おやつパーティー4回	折り紙製作教室、鯉のぼり飾り製作
5月	園芸活動～花、野菜などの植物の苗を植えよう	あじさい壁面製作
6月		夏の飾り作り
7月	バーベキュー（中庭にて）1回	七夕飾り製作
8月	バーベキュー（中庭にて）4回、園芸活動～野菜を収穫しよう	折り紙製作教室、秋の飾り作り
9月	縁日レク4回	ハロウィン飾り製作
10月	焼き芋パーティー4回、縁日レク4回	ハロウィン飾り製作、凧作り
11月		クリスマス飾り製作
12月	クリスマス会1回、おやつレク2回	正月飾り製作
1月	新春ビンゴゲーム大会5回、鍋料理の日（寄せ鍋2回	春の飾り作り、節分お面作り
2月	節分の豆まき、鍋料理の日（寄せ鍋）3回	ひな祭り飾り製作
3月		桜の木・花制作

【スポーツレク活動】

スカットボール、ボウリング、ホームランゲーム、ペットボトルボウリング、缶コロリングゲーム、射的、ゲーゴルゴルフ、ゲーゴルゲーム、めくってポンゲーム、ペタンク、ペットボトルサッカー、豆まめリレー、お手玉ゲーム、アニマルゲーム、トントン相撲、輪投げ、的あてゲーム、トランプ、外気浴

【個別活動】

ストレッチ、将棋、オセロ、塗り絵、和紙工作、数学勉強、DVD視聴、日光浴、館内散歩、歩行訓練（廊下内）

(7) 実習生受入れ状況

鹿光学習センター 介護福祉実務科 通所施設実習 3名

(8) 地域貢献活動

石山地区清掃活動(春・秋 年2回)

地域事業部各事業所の事業報告

和幸園指定居宅介護支援事業所 ～ since 2000 ～

1. 事業報告総括

事業所の運営方針である「地域住民から信頼を得られるような包括的支援の展開」に職員全員で取り組み、相談のあったケースに対しては可能な限り迅速且つ丁寧に対応したことが評価され、南区内の3つの地域包括支援センターから多くの新規ケースの紹介がありました。また、病院・他事業所・南区役所・介護予防センターからの紹介が増えたことも、当事業所のこれまでの取り組みや姿勢が評価されていると考えています。今後も、各ケアマネジャーがそれぞれの基礎資格での業務経験や専門性を十分に発揮し、事業所全体として常に質の高い支援が提供できるよう、スキルアップに取り組んでいきます。

経営状況としては、平均月間支援実績が要介護者数185.8件、要支援者数34.8件となり、合計220.6件となりました。ケアマネジャーを1名増員したため、前年度より高めの目標設定となっており、達成率は95.5%となりました。多くの新規相談、支援開始ケースがあった一方で、それを上回るご逝去、入院、施設入居等による終了や一時的な休止ケースがあったことが実績に大きく影響しました。

75歳以上の高齢者が急激に増加する2025年問題を目前として、地域社会における高齢者への支援体制強化に対応するため、現在のケアマネジャー体制を維持し、事業所としての成長を目指していきます。

2. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

① 質の高いケアマネジメントの実践

可能な限り地域で生活できるようにご家族及び地域の方々、サービス事業所と連携しながら、ご利用者の選択に基づき適切な保健医療サービスが受けられるよう支援を行いました。また、積極的に医療との連携を図り、疾病と生活障がいとの関連性について精査しご利用者の生活課題の解決に努めました。

② 中立性・公平性の確保

ご利用者の利益を最優先に支援を行い、独立且つ幅広い関係機関との連携を保ち、公平・中立なケアマネジメントを実践しました。

③ 説明責任

制度改正に伴う情報やケアプランの内容をご利用者に適切な方法で分かりやすく説明しました。

④ 高齢者の権利擁護のための必要な援助

高齢者虐待防止法の理解を深め、早期発見及び予防に努めるとともに、関係機関から依頼のあった緊急ケースに対し迅速に対応しました。担当ご利用者で虐待の疑いがある場合は、札幌市と地域包括支援センターへの相談を行い、適切な対応を図りました。

⑤ 緊急時における迅速な対応

特定事業所として、緊急時に即対応できるように各ケアマネジャーが連携して対応しました。

⑥ 支援困難ケースの積極的受け入れ

認知症等の疾患が原因でサービス利用に対して拒否的な方に対しては、サービス内容の理解が容易に進むよう、ご家族等より詳細に情報を収集し、関係事業所との綿密な打ち合わせのうえで対応することで、スムーズなサービス利用に繋がるよう支援しました。

(2) 財務視点

① サービス提供エリアにおける情報収集

関係機関との連携の強化を図り、サービス提供エリアにおける福祉サービスの動向を把握しました。

② ケアマネジメント力の向上による在宅生活期間の延長

事業所のケアマネジメント力の向上を図りながら、できるだけ住み慣れた地域での在宅生活を継続できるよう、地域の各種サービス事業所との連携強化に努めました。

③ 新規支援ケースの確保

あらゆる相談に可能な限り即時対応することを徹底しました。特に医療機関や地域包括支援センターからの紹介ケース、地域の方からの直接のご相談に積極的に対応し、新規支援ケースの確保に努めました。

④ コスト管理の徹底

職員全員で業務分担を行い、業務の効率化を推進しました。また、効率的な訪問を意識したスケジュールを組み立てることで、時間のコスト管理やガソリン等の経費の節減に努めました。

(3) 人材視点

職員間の円滑なコミュニケーションにより、事業所全体のチーム力が向上し、バーンアウトや離職防止に繋がりました。職員育成については、個別面談の実施や主任ケアマネジャーを中心としたスーパーバイズ、伝達会議での個別ケースの検討（事例検討会）や勉強会の開催等により、職員個々のスキルアップと事業所としての支援力の向上に努めました。

(4) 地域貢献視点

① 地域福祉ネットワークの強化として、南区内の地域包括支援センターや行政機関、地域の病院、介護予防センター、民生委員の方々との連携を図りました。

② 新型コロナウイルス感染症の影響により休止していた「いしやま朝市バス」の運行を再開しました。

(5) ガバナンス体制の強化

① 運営基準の遵守のため、定期的に介護保険制度の勉強会を行うとともに、不備のない分かりやすい記録の整備に努めました。

② プライバシーの尊重と秘密保持の徹底を目的として、個人情報の安全な取り扱いのマニュアルの定期的な見直しを行いました。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2024年3月31日現在

職種	人数	区分				備考
		常勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士、介護福祉士、主任介護支援専門員
主任介護支援専門員	5	3	2	0	0	社会福祉士3名、精神保健福祉士1名、介護福祉士4名 管理者兼務1名、併設事業所管理者兼務1名
介護支援専門員	3	3	0	0	0	介護福祉士2名、柔道整復師1名

(2) 職員研修実施状況

	研修名	参加者
4月6日	事業所内研修（業務分掌見直し）	介護支援専門員8名
5月25日	事業所内研修（高齢者虐待マニュアル見直し）	介護支援専門員8名
6月1日	事業所内研修（プライバシー保護マニュアル見直し）	介護支援専門員8名
6月21日	「がん患者さんへの相談支援と地域連携について」	介護支援専門員6名
6月22日	事業所内研修（認知症マニュアル見直し、事故発生マニュアル見直し、面接技術マニュアル見直し）	介護支援専門員8名
6月29日	事業所内研修 （感染症マニュアル見直し及び研修、新人ケアマネ業務マニュアル見直し、相談苦情マニュアル見直し）	介護支援専門員8名
7月6日	事業所内研修（災害時緊急時マニュアル見直し及び研修、予防業務マニュアル見直し）	介護支援専門員8名
7月25日	札幌市介護支援専門員連絡協議会南区支部研修①「ネットワークを広げよう～」	介護支援専門員2名
7月27日	南区第一包括研修会「地域の社会資源研修会」	介護支援専門員5名
8月22日	南区地域包括支援センター事例検討会	介護支援専門員3名
9月7日	令和5年度第1回合同事例検討会	介護支援専門員4名
9月28日	アルツハイマー月間研修「アルツハイマーを深堀する」	介護支援専門員1名
10月3日	南区地域包括支援センター研修会（介護支援専門員連絡協議会研修②） 「運営指導で指摘されないCMの専門知識」	介護支援専門員4名
10月20日	北祐会神経内科病院サロンあうる「どんな時に神経内科に相談するの？」	介護支援専門員2名
12月13日	「ターミナルケアマネジメントに自信を持とう」	介護支援専門員2名
1月24日	南区第一地域包括支援センター事例検討会	介護支援専門員1名
2月9日	南区第一地域包括支援センター研修会「予防ケアマネジメントの一連の流れ」	介護支援専門員8名
2月9日	札幌市介護支援専門員連絡協議会南区支部研修③ 「事例で考えるケアマネジャーと成年後見人の役割と連携」	介護支援専門員5名
3月8日	2023年度札幌市高齢者虐待対対応研修【介護支援専門員編】	介護支援専門員3名
3月14日	令和5年度第2回合同事例検討会	介護支援専門員4名
3月14日	札幌市介護支援専門員連絡協議会南区支部研修④「2024年度制度改正」	介護支援専門員1名
3月29日	「令和6年度介護報酬改正ポイント」オンデマンド配信	介護支援専門員5名
毎月	事例検討会 全12回	介護支援専門員8名

(3) 利用者状況

① 居宅介護支援事業所請求実績数

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	未確定	計	要支援	合計
4月	87	58	22	15	9	1	192	31	223
5月	86	55	21	13	10	7	192	31	223
6月	86	51	24	13	7	6	187	32	219
7月	85	48	27	12	7	3	182	34	216
8月	87	47	24	12	8	6	184	35	219
9月	91	44	23	12	9	4	183	37	220
10月	87	47	26	11	9	4	184	36	220
11月	88	44	26	10	10	7	185	35	220
12月	90	45	27	10	11	6	189	36	225
1月	87	43	29	11	10	5	185	37	222
2月	88	46	30	11	9	3	187	35	222
3月	81	47	29	10	9	4	180	39	219
計	1,043	575	308	140	108	56	2,230	418	2,648
2022年度	1,086	610	227	160	138	50	2,271	445	2,716

② 新規利用者紹介経緯（給付管理数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2022年度
南区第1包括	0	0	1	3	3	1	0	2	1	2	1	1	15	17
南区第2包括	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	0	3	8	3
南区第3包括	0	1	1	0	0	0	1	1	1	1	0	0	6	2
病院	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	2	2	8	4
法人内	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	3	5
利用者家族	0	1	0	1	1	1	0	0	1	0	1	0	6	6
電話相談	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	6
他居宅移管	2	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	5	9
事業所	0	1	1	1	0	0	2	0	4	0	1	0	10	4
南区役所	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0
予防センター	0	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	6	0
来所相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	7	6	6	7	6	3	5	10	9	5	6	72	56

和幸園・グリーンハイムホームヘルプサービス事業所 ～ since 2012 ～

1. 事業報告総括

介護保険制度、障害者総合支援法が創設され、高齢者も障がいをお持ちの方も地域で安心して暮らすことができる地域福祉の成長が期待されましたが、度重なる法・制度の改正により、地域福祉の原点である訪問介護事業の事業存続が危ぶまれる状況となっています。当事業所も例外ではなく、経営面・人材面において厳しい環境ではありますが、持続可能な経営スタイルを模索する中で、経営規模をある程度縮小し、社会から求められる専門性と価値の高い支援に重点を置いた事業所の運営に取り組んでいます。その中で大切にしていることは、事業所としての特色を持つことと職員にとってやりがいや誇りを持てる仕事であること、そして働きやすい環境を整備することです。そのため、月に一度の全体会議、研修会、さらにヘルパー個々の希望を叶える個別研修を実施するとともに、ヘルパー個々との良好なコミュニケーションを図ることに力を入れています。

また、サービス提供責任者の業務やヘルパーとの連絡調整業務の効率化を目指した ICT システムの導入から1年が経過し、ヘルパーの協力のもとでペーパーレス化や業務の効率化を図ることができました。

経営状況としては、前年度比で年間の稼働総時間数が増加しており、ヘルパー1人当たりの稼働時間数も増加しました。登録利用者数は減少しましたが、より専門性の高い重度の支援が必要なご利用者が増加している結果となっています。また、ヘルパー個々の心身状況や家庭環境等に配慮しながら、効率的なサービス調整等を行ってきたことも奏功しました。

2. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

- ・看取り対応のご利用者の支援はなかったものの、様々な支援が必要な独居、またはご夫妻の在宅生活の継続を支援することにより、ご本人やそのご家族にとっても、納得できる在宅生活を送っていただくことができました。

(2) 財務視点

- ・ヘルパー1人当たりの1ヵ月の平均稼働時間数は、目標の35時間をクリアし、さらに時間数を伸ばすことができました。登録ヘルパーの高齢化やヘルパー個々の心身の健康状態、家庭環境により生じる希望の働き方に対応し、都度調整を行いました。
- ・数ヵ月先の支援の提供状況を見通しながら、新規利用者の受け入れを進めていくことで、廃止や休止があった場合の稼働時間、ご利用者数の大幅な低下を防止することができました。
- ・社会から求められる専門性と価値の高い支援に重点を置いたことにより、障がい分野での増収を達成することができました。

(3) 人材視点

- ・厳しい経営状況ではありますが、職員の待遇改善とヘルパーの在籍年数と1年間の稼働時間数をミックスした新しい賃金体制へ改正し、職員のモチベーション向上に結びました。
- ・登録ヘルパーが無理なく仕事を継続できるよう、定期的な面談等を行うことで一人ひとりの希望する働き方等を把握し、調整することができました。

(4) 地域貢献視点

- ・事業所前の花壇を整備し、地域の美化活動に取り組みました。
- ・石山地区の清掃活動に参加しました。
- ・公開調理実習を予定していましたが、新型コロナウイルス等の影響もあり、開催することができませんでした。2024年度の開催に向けて、準備をしていきます。

(5) ガバナンス視点

- ・札幌市の集団指導の資料をサービス提供責任者全員で確認、サービス提供責任者会議等で情報共有を行い、確実に行うべき業務の確認を行いました。
- ・サービス提供責任者としての業務内容及びモニタリングや、訪問介護計画書の作成状況の確認を行いました。サービス提供責任者のヘルプ活動と事務作業のバランスを図るための調整を行いました。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2024年3月31日現在

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	サービス提供責任者兼務
サービス提供責任者	3	2	1	0	0	介護福祉士3名
登録ヘルパー	14	0	0	14	0	介護福祉士11名

【 職員体制の変遷 】

	2023年度	2022年度	2021年度
サービス提供責任者	3	3	3
登録ヘルパー	14	16	16
計	17	19	19

【 職員の資格状況 】

	2023年度	2022年度	2021年度
介護福祉士	14	16	15
ホームヘルパー 1級	0	0	0
ホームヘルパー 2級	3	3	4

(2) 職員研修実施状況

	研修名	参加職種
4月22日	利用者・家族の声から考える プライバシー保護	ヘルパー 18名
5月20日	おむつ交換	ヘルパー 18名
6月17日	認知症事例	ヘルパー 18名
7月15日	食中毒・感染症/利用者様の調理品について	ヘルパー 18名
8月19日	老計第10号 訪問介護におけるサービス行為ごとの区分等について	ヘルパー 18名
9月16日	身体拘束・虐待防止	ヘルパー 18名
10月21日	事故再発防止・介護事故その後の対策を考える	ヘルパー 18名
11月18日	介護職の倫理を考える/ハラスメント	ヘルパー 17名
12月23日	精神疾患のある利用者への支援を考える	ヘルパー 17名
1月20日	緊急時対応“脳梗塞”その時どう動くか / BCP(事業継続計画)	ヘルパー 17名
2月17日	「接遇」はなぜ大切か?傾聴を中心に考える	ヘルパー 17名
3月23日	看取り	ヘルパー 17名

(3) 利用者状況

① 介護保険制度 訪問介護事業 利用者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
非該当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援1	9	10	10	10	10	10	10	12	11	12	13	13	130
要支援2	13	14	14	13	16	14	12	13	15	13	17	16	170
要介護1	24	23	21	23	21	20	17	18	16	15	15	14	227
要介護2	8	9	10	10	10	10	11	10	12	12	14	14	130
要介護3	4	4	5	5	6	5	4	4	4	3	3	2	49
要介護4	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	0	18
要介護5	4	5	4	3	4	5	4	3	4	3	3	3	45
計	64	67	66	66	69	66	60	61	63	59	66	62	769

② 障害福祉サービス 利用者人数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅介護	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	1	1	1	2	2	1	1	1	3	3	2	2	20
	区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	区分6	6	6	5	5	5	4	4	6	6	6	6	6	65
重度訪問	区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分6	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	40

介護予防センター石山・芸術の森 ～ since 1995 ～

1. 事業報告総括

(1) 総合相談支援業務

- ・総合相談

年間の延べ相談数が、前年度比で10件増加の66件となりました。地域の高齢者と関わる機会が増え、地域での活動が活性化したことが相談件数に反映したと考えています。今後も、身近な相談窓口として認知してもらえるよう周知活動を行います。

- ・関係機関とのネットワークの構築

区連絡会議や地区連絡会議を通じて、地域の情報共有を図り、地域支援に携わることができました。

- ・地域課題の解決に向けた地域関係者との検討と連携体制の構築

石山地区地域ケア会議では、これまでの取り組みを地域にフィードバックし、町内会活動の担い手不足の解決に向けた検討を行うことができました。芸術の森地区地域ケア会議では、町内会と関係機関の顔が見える関係性の構築をテーマとして、関係機関の周知方法や関係構築のための取り組みについて検討を行い、考えやニーズを共有することができました。

(2) 介護予防教室の実施及び介護予防普及啓発業務

- ・介護予防教室の実施

当センター主催の転倒予防体操教室を3会場で合計95回開催しました。

- ・介護予防教室の運営

参加者とのコミュニケーションが密になり、教室を通じての相談件数が増加、地区毎のニーズを把握することができました。

- ・介護予防活動に取り組む機会の提供

町内会役員や各関係者に対し、介護予防の必要性や転倒予防体操教室の内容と効果について説明を行いました。その際に配布したチラシや回覧の効果もあり、参加人数の増加に繋がりました。

(3) 地域介護予防活動支援業務

- ・主体的な介護予防活動推進に向けた助言・支援の実施

石山地区では地区の「活動の場」一覧表を作成して地域へ配布しました。来年度は専門職（HARP）の地域分析結果を活用し、地域に必要な地域活動を行います。

- ・地域の介護予防における担い手の育成

南区介護予防センター合同で、南区自主活動サポート教室を実施しました。石山地区3名、芸術の森地区1名に参加いただき、予防センタープロジェクトで作成した体操、PTによるリズム体操の紹介、認知症サポーター養成講座を行いました。

- ・高齢者への活動の場づくりの提案

南区介護予防センター合同で、南区運動サポーターフォローアップ研修を実施しました。石山地区より2名参加し、レクの振り返りの他「転ばん体操」の振り返り、OTによる講話と脳トレ、STによる口腔体操を行いました。また、南区介護予防サポーター養成講座を1クール全5回で行いました。芸術の森地区から1名参加があり、地域包括支援センター保健師からの講話、体操指導と体力測定についての講話と技術指導を行いました。

(4) 専門職と連携した介護予防強化業務

- ・住民が主体となる介護予防活動の立ち上げ支援

1つの町内会より新規で「交流会」の依頼があり、自主活動の立ち上げまでは至りませんでした。来年度に繋がる支援ができました。

- ・既存団体、自主活動化した教室へ支援

石山地区にてサロン1団体、自主活動グループ2団体、老人クラブ1団体、芸術の森地区にてサロン1団体を対象として、専門職と連携した体力測定や口腔、栄養に関する健康講話を行い、介護予防活動を推進しました。

- ・専門職と連携した介護予防センター運営事業の充実と強化

介護予防センター主催の介護予防教室において、リハビリテーション専門職と連携した体力測定、講話等を実施し、石山会場で10名、アクロスプラザ会場で13名、芸術の森会場で6名の方に参加いただきました。今後も、参加率の向上と介護予防に効果的な介護予防啓発活動を続けていきます。

(5) その他

石山まちづくりセンターのご協力により、センター内掲示板に石山地区転倒予防体操教室参加者による作品展示を行いました。地域の高齢者の社会参加の場を増やすこととなり、またセンター来館者にも好評であったとの評価をいただきました。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
センター長	1	0	1	0	0	社会福祉士/精神保健福祉士/主任介護支援専門員 併設事業所管理者兼務
ケースワーカー	2	2	0	0	0	社会福祉士1名、介護福祉士1名

(2) 年間業務状況

① 相談事業

<相談種別・割合>

	件 数		2023 年度割合
	2023 年度	2022 年度	
介護保険サービスの利用希望	15	19	22.7%
介護保険制度以外（上記以外）	1	1	1.5%
介護予防	26	10	39.4%
保健福祉サービス	1	0	1.5%
認知症について	0	6	0%
心身の健康に関すること	10	5	15.2%
家族の疾病・障がいに関すること	2	0	3.0%
医療に関すること	1	0	1.5%
処遇困難	0	1	0%
苦 情	1	1	1.5%
その他	9	7	13.7%
計（重複あり）	66	50	100.0%

② 介護予防普及・啓発事業

<転倒予防体操教室 開催状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
芸術の森会館	2	2	2	2	2	2	2	3	1	1	2	2	23
石山会館	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	23
アクロスプラザ	4	3	5	4	5	4	4	4	4	3	5	4	49
計	8	7	9	8	9	8	8	9	7	5	9	8	95

<転倒予防体操教室 参加延べ人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
芸術の森会館	12	12	11	16	11	13	17	46	13	13	37	22	223
石山会館	26	26	29	34	23	30	31	28	41	3	27	25	323
アクロスプラザ	48	44	87	75	80	71	64	66	77	63	109	95	879
計	86	82	127	125	114	114	112	140	131	79	173	142	1,425

相談支援事業所グリーンハイム ～ since 2012 ～

1. 事業報告総括

札幌市障がい者相談支援事業業務（南区）を受託する相談支援事業所の役割として、地域福祉のネットワーク強化のため、南区地域包括支援センター、障がい福祉サービス事業所、民生委員・児童委員を対象とした講演会や研修会を行いました。また、隔月で南区内相談支援事業所との事例検討会を開催し、南区内の相談体制の強化と相談支援の質向上に取り組みました。そのことにより、これまで潜在していた地域からの相談や介護保険分野のケアマネジャー、行政等の関係機関と連携したケース対応を行う機会が増加しました。

札幌市障がい者支援事業業務の拡大や新規相談ケースへの対応、今後の事業所規模の拡大を視野に相談員を1名採用し、4名体制で事業所を運営することとしました。事業所の体制強化を図り、今後も丁寧な相談支援を継続していくとともに、地域のケアマネジメントを行う事業所としての運営にも力を入れていきます。

2. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

- ・ご利用者一人ひとりの価値観、生活様式等に配慮した相談支援を継続しました。その中で、事業所・ご家族とご利用者のニーズが一致しない場合、関係者と協力し、ニーズと支援の一致を図りました。
- ・ご利用者のエンパワメントの視点に重点を置き、利用者一人ひとりにどこまでの支援が必要かを検討したうえで支援を行いました。
- ・ご利用者の立場に立ち、ご利用者の意思を尊重したうえで、ケアマネジメントを行いました。
- ・虐待疑いや虐待リスクの高いケースについて、早期に行政と情報共有するとともに、障害福祉サービスの再調整等、関係機関と連携した支援を行いました。
- ・行政、関係機関と連携し、利用者の安心・安全の確保に努め、よりよい生活構築のためにサービス調整等を行いました。

(2) 財務視点

- ・指定相談支援事業所へのケース移管等により、計画・モニタリング数が前年度よりも減少しました。
- ・札幌市障がい者相談支援事業業務の受託により、安定した経営を継続することができました。

(3) 人材視点

- ・週1回ケースカンファレンスを行い、支援内容の報告、支援の必要性の確認、気持ちの整理等を行うことで、バーンアウトを防ぐように努めました。
- ・相談支援専門員の業務遂行状況に合わせ、定期的な個別面談を行い、相談員が抱えているジレンマ、課題を共有し、課題解決に向けて取り組みました。
- ・積極的に研修に参加し、専門知識の習得に努めました。
- ・他相談支援事業所と連携を図り、定期的な事例検討会や交換研修を行いました。

(4) 地域貢献視点

- ・自立支援協議会南区地域部会の後方支援を行い、関係機関とともに南区内の障がい福祉の発展に資する活動を行いました。
- ・地域の関係機関を対象として、障がいの理解を深めていただくための研修会や講演会を行いました。
- ・指定相談支援事業所との定期交流会、SNS（slack）を使ったネットワークを継続しています。

- ・他法人相談支援専門員の資質向上のため、インテーク面接等への同行支援を行いました。
- ・相談支援専門員養成研修にファシリテーターとして参加し、相談支援専門員の育成支援を行いました。

(5) ガバナンス視点

- ・コンプライアンス対策として、職員個々と定期的な個別面談、業務状況の確認を行い、契約関係書類、経過記録、計画・モニタリング利用者の確認等を徹底しました。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2024年3月31日現在

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士 主任相談支援専門員兼務
主任相談支援専門員	2	1	1	0	0	社会福祉士／介護福祉士 管理者兼務1名
相談支援専門員	1	1	0	0	0	社会福祉士
相談員	1	1	0	0	0	社会福祉主事

(2) 職員研修実施状況（外部研修及び合同事例検討会）

	会議・研修名	参加職種
4月26日	豊平区自立支援協議会	相談支援専門員1名
5月26日	西区子ども部会	相談支援専門員1名
7月7日	神経筋疾患分野ネットワーク分野	相談支援専門員1名
7月20～22日 9月26～27日 11月16～17日	相談支援従事者研修初任者研修（ファシリテーター）	相談支援専門員1名
8月2日	障がい児教育夏季セミナー	相談支援専門員1名
8月3日	札幌市成年後見推進センター研修	相談支援専門員1名
8月8～9日 10月19日	相談支援専門員従事者研修現任研修（ファシリテーター）	相談支援専門員1名
9月4日	子ども発達支援者支援力向上セミナー	相談支援専門員1名
9月8日	呼吸器新館と神経難病のための呼吸ケア	相談支援専門員1名
9月20日	神経筋疾患の栄養管理・嚥下障害への対応	相談支援専門員1名
10月16日	石山地区高齢者など見守り活動意見交換会	相談支援専門員1名
10月19日	精神障がいのある人の人権と精神保健の「グッドプラクティス」の推進	相談支援専門員3名
11月8日	精神疾患を抱える保護者への支援	相談支援専門員1名
11月21日	豊平区相談室交流会	相談支援専門員3名
12月14日	ギャンブル等でお困りの家族セミナー	相談支援専門員2名
12月26日	卒業後が心配な生徒に今できること	相談支援専門員1名
1月19日	歯科医師による子ども虐待対応のための研修会	相談支援専門員1名
1月22・29日	ゲーキーパー研修	相談支援専門員2名
1月30日	知的・発達障がい啓発講座	相談支援専門員1名
2月2日	障がい者虐待対応研修	相談支援専門員2名
2月16日	西区子ども部会研修交流会	相談支援専門員1名
3月18日	介護保険との連携	相談支援専門員3名
3月17日	「人材育成」と「スキルアップ」研修	相談支援専門員3名
4月～3月	南区在宅ケア連絡会 全2回	相談支援専門員3名
4月～3月	事例検討会 全5回	相談支援専門員3名
4月～3月	巡回法律相談会 全11回	相談支援専門員3名

(3) 利用者状況

① 障がい別内訳

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	難病	その他	計
129	8	159	79	14	2	6	21	418

② 支援方法別内訳

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別ケース会議	関係機関	その他	計
支援件数	908	10	72	877	58	75	532	8	2,540

③ 相談支援給付件数（計画、継続支援、地域移行支援）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2023年度	73	54	52	51	51	39	40	46	50	58	49	47	610
2022年度	72	38	62	51	47	98	51	57	55	73	60	56	720

